

層富

(川口勇善)

会誌名「層富」(そほ・そふ)の由来

私たちが住んでいる平城ニュータウンの地域は、古代には「層富」または「曾布」添とも記され、「倭六県」(やまとのりくのあがた)の一つでありました。出典は『日本書記』の神武即位前紀己未年の春2月壬辰朔辛亥(20日)の条にみえる「層富県」によりました。

題字もはじめ小さく、あと大きくしましたのは皆様の将来と本会の末広の発展を願ったものです。

古代大和の由緒ある地名を理事会の賛同を得て会誌名としました。ご愛顧の程を。(網干善教)



会章

平城ニュータウンの「平」と文化協会の「文」を上下に組み合わせ、単純な円形にまとめ、音如ヶ谷瓦窯跡から出土の古代軒丸瓦の中央部分に配置したものです。蓮華の中の埴輪の顔のようにも、二人三脚で楽しんでいられるようにも見えます。

(基本デザイン 朱雀・寛裕)



建設中の「朱雀門」の上から南方を望む

第十四号 目次 一九九七年

巻頭言	網干 善教	1
記念講演 世界遺産について	南田 昭典	2
漢詩	片桐 一夫	11
私の歩んだ道	大橋 一二	12
俳句		17
私たちの暮しと微生物	竹西 繁行	29
「もう」「まだ」どちら？	廣田 好實	37
「辻ヶ花」	荒居 智子	38
「母の日」	木村 長子	39
故 永田さんのこと		41
弔辞		43
永田喜一郎氏を偲ぶ	田中 幸夫	44
短歌		45
グループ便り		54
奈良県民芸術文化祭参加について		90
第十四回文化祭記録		91
一九九七年度総会記録		96
会則		103
役員名簿		106
会員名簿		1
編集後記		1

巻頭言

会長 網 干 善 教

桜の花が半咲きになった四月初旬、ある方から正月以来母が入院していただき、講座の方も休ませてもらっています。毎日付き添っており、病院通いの生活で気が重くなっていますとのことであった。私にもそれに近いような体験があった。そこでその時のことを思い出して下手ではあるが、即興の一句、

病める母（も）の 看護の窓に 咲く桜

と。春だ。春だのに憂鬱の毎日である。早く母の病が全快しますように。窓をみると満開の桜が見える。何だか晴々とした気持になる。そういう情景を表わしたかった。

人間、誰でも思うようにならない場合がある。元気で、楽しく文化協会の講座に通っている時は、さほど思わないかも知れないが、しばらくの間でも欠席しなければならなくなった時、はじめてその存在の有難さ、自分にとって参加する意義を知ることができるような、そんな「平城ニュータウン文化協会」でありたいと思う。

今後共よろしく願います。

第十五回総会記念講演（要旨）

「世界遺産について」

奈良市企画部長 南 田 昭 典

一、はじめに

平城ニュータウン文化協会の皆さん。

平素は市政に格段のご協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

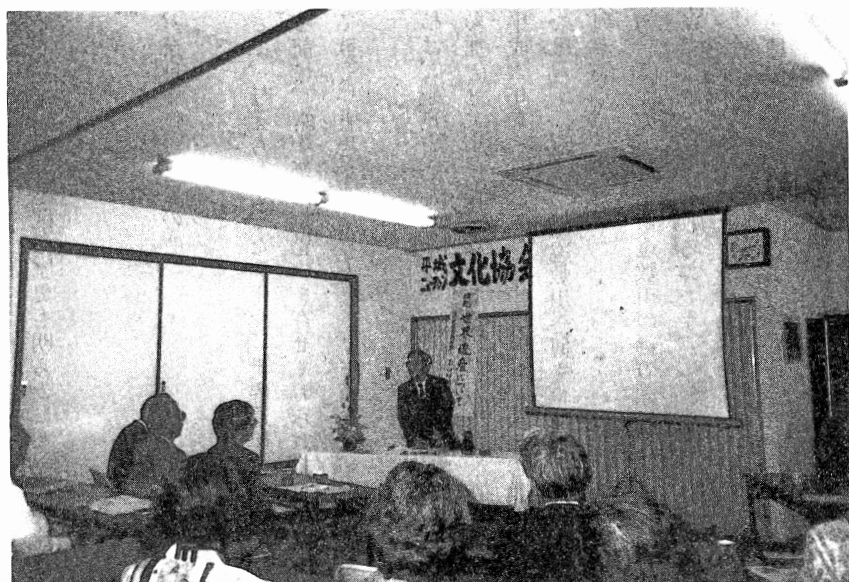
文化協会の皆さんが、設立以来十三年もの間巾広い分野でご活躍され、ますます発展しておられることに心から敬意を表します。

会長さんが、ご高名な学者の網干先生ということで、実のところお招きを受けて恐縮して、お断りできないかと深刻に考えたところでございます。

私は勉強不足で、誠に恥しい次第ですがお許し下さい。

さて、平城ニュータウンも皆さまのたゆまない町づくりのご努力のおかげで、二十五周年を迎えて、人口も、八二七六世帯、一三五、六四四人（平成九年四月一日現在）となり、大きな町として発展しつつある点に力強く感じますと共に、都市機能の充実に更に努力すべきであると考えており今後共にご協力をよろしく願います。

自主防災組織の結成、女性の消防クラブの結成等、各地区の連合会長さんはじめ役員の方々が、先導的な役割を果たしていただいておりますことに感謝申し上げます。



また、二十五周年を迎えて、立派な記念誌を発行され、平城ニュータウン地区の歴史も明らかにした、立派な内容に敬意を表します。

二、奈良を育む人々の心

さて、与えられましたテーマ「世界遺産について」に入る前に、常々奈良に思いを寄せておられる方の話をさせて欲しいと思います。

私は、奈良市と姉妹都市である小浜市のお水送り行事に参加させて頂いたことがあります。

平成六年の三月二日の夜小浜市の神宮寺の境内で、壮大なとんどの火を受けて遠敷川へ何キロとなくたいまつ行列が続くのです。

幻想的な火の行列が遠敷川の鵜の瀬に到着した頃、お水送りの行事が行われるのです。

三月とはいえ残雪の厳しいつく夜を歩きおえたとき、何ともいえぬ清々しさを感じました。

そしてその三月十二日東大寺の二月堂の修二会に参籠する機会を得たのです。練行衆の厳しい行法と声明、そのことが、千二百四十六年間絶えることなくいとまれていることに心からなる尊敬の念とひれ伏したい思いを感じたものです。

ある年、深夜に上品な白髪のおばあさんがまんじりともせず厳しい寒さの二月堂で修二会に参加しておられたのです。その方が作家の井上靖さんの奥さんの随筆家である井上ふみさんでした。井上先生は、奈良シルクロード博のプロデューサーであり、「天平の薨」など多くの名作を残された奈良ゆかりの作家です。

奈良市は、毎年東京で奈良市にご縁のある方々にお集まりいただいて、奈良に対する提言をいただいておりますが、毎年七、八十名の東京懇談会を開いていきます。

井上ふみさんには毎年ご出席いただいておりますが、世田谷の井上邸に伺ったときのことですが、

「世界の奈良を皆さんで守って下さい。」

と仰言ったのですが、その時、

「例えば、千手観音様の一本の指にマニキュアを塗ったとしたら、どうか想像して下さい。そんなの似合うでしょうか。どうか、奈良の人に伝えて下さい。奈良を守って下さい」。

私は、その表現の若々しさとみずみずしさに、さすが随筆家として名をなされる方だと感じました。修二会に参られることといい、こんな思いを奈良に対して持っていたにいたっていることが、本当にありがたく思えました。

今年の一月のシンポジウムでも話させていたでいて重複する点もありますがお許しをいただいで、奈良の歴史と文化を守り、次の世代へ引き継ぐために、枚挙できな程多くの先人が、ご努力いただいたのです。そのおかげで、今日の奈良のまちがあることに深い感謝を感じるところです。

私個人にとりましては、昨年十一月に亡くなられまし

た市の文化財保護審議会長の土井先生や、写真家の入江泰吉先生から多くのことを学ばさせていただきました。

土井先生が、県の教育委員会におられた頃、戦前多くの仏像を疎開するために柳生街道を白布を巻いて運んだこと、法隆寺の金堂が焼けた時、駐留軍の車で、ドアのないジープで舗装もされていない斑鳩への道を、ふり落されそうになりながら疾駆したことなど、文化財を守る厳しさに心をうたれたものでした。

そうした話の中でも、土井先生は英語も話せたので戦後駐留軍と文化財の仕事にかかわられたわけですが、三輪山が神体山である概念をどうしても理解させることに苦労したと仰言っておられました。

つまり当時欧米の思想の中で、山が神として尊敬される存在であること、概念はなかったのかも知れません。先生は、日本には富士山をはじめ多くの山が神としてあがめられている日本の風土、鎮守の森の存在を説明し、三輪山もまさに神そのものであることの説明をされたようです。

GHQはなぜ山が神なのか、山はネイチャーであるといいはったようですが、先生は日本人の精神と風土を説いてようやく理解をえたといっておられました。これは、まさに、思想と文化の衝突ではなかったかと私は感じています。

しかし、その考え方がようやく世界遺産の中に、ニュージーランドのトンガリロや中国の黄山のように自然と人間のかかわりが、世界遺産として残そうとする思想となつて確立してきたと感じているところです。

土井先生は、晩年ならまちを残すために私共に多くのサジェッションをいただき、「奈良まちを歩く」を発売して下さいました。

入江先生は、ご案内のとおり、八万点もの写真作品を奈良市に寄付して下さい、市が写真美術館として皆さんにみていただいております。

入江先生は、大阪ですでに文楽を写真に撮って賞をえ

られるなど、写真家として名をなしておられた方が、焼け出されて、奈良の家に帰っておられた時、東大寺の三月堂に帰ってきた白布をまいた四天王様の姿を見て、大阪の闇市に走ってカメラや写真機材を買って、奈良にとどまってこの仏たちを写真に残そうと美しい大和路をレンズをとおして私たちに語りかけていただいたのです。

三月堂に帰ってきた仏像を運ばれた土井先生を含む人々、写真を撮ろうとした人の精神の結合ともいえる邂逅は、時としてお互いの意思疎通がなくとも、心をうつものかなと感じさせたのです。

また、地元佐紀出身の河辺隆光師は、江戸時代に護持院隆光と呼ばれた高僧ですが、多くの毀誉褒貶のある中ですが、多額の江戸幕府からの資金をひきだして、大仏殿の復興、法隆寺の解体修理、春日さんの社殿復元、長谷寺、唐招提寺等多くの奈良の社寺修理に尽力なされた話を西の京の西光院の隆光の供養碑の前で、青山茂奈良市教育委員長に教わりました。

また、猿沢池の五十二段の登りつめた所に、「植桜楓之碑」が建っています。これは、幕末の奈良町奉行であつた川路聖謨が奈良公園に木を植えたが、後世の人々にも植樹を奨励して、奈良公園を守ることを私たちに訴えておられます。

聖謨は、幕府の要職に戻り、江戸城の開城が決まつた翌日に自刃されたと伺っております。

もつともつと多くの方々のおかげで今日の奈良が築かれ、育まれてきたことに感謝の他ありません。

私が申し上げたのは、ごくごくわずかであることをお許し下さい。

三、世界遺産について

世界遺産の目的は、普遍的な価値を有するかけがえない人類共通の遺産である文化財や、自然を守り保護し、次代に継承していくことを目的として、国際協力をしていることとするものです。

ひとことではいへば「世界遺産」とは、永遠に残したい

文化と自然のことです。

一九六〇年ユネスコは人類共通の遺産である文化財及び記念物を保護保存する目的で、国際キャンペーンを実施し、修復にとりかかりました。

アスワンハイダムで水没するアブシンベル神殿の移転もその一つです。

そうした考えのもと一九七二年（昭四七）十一月パリで第十七回ユネスコ総会において三十八条からなる世界遺産条約が採択されたのです。

この条約のもつとも特徴的なことは、それまで相反するものとしてとらえてきた動、植物を含む自然と文化を実は密接な関連があり、ともに保護することが大切であるとした点です。

現在条約批准国は、一四八カ国、文化遺産三八〇、自然遺産一〇七、複合遺産十九、計五〇六が世界遺産とし

て登録されています。

四、日本の世界遺産について

日本の世界遺産一覧表に記載されたのは、平成五年に登録された法隆寺と姫路城のほか屋久島、白神山地、古都京都の文化財、白川郷五箇山の合掌作り、原爆ドーム、厳島神社の八ヶ所です。

五、奈良市のとりくみについて

四月十八日に文化庁は、文化財保護審議会で「古都奈良の文化財」の世界遺産に推せんすることを決定しました。

平成七年十一月に大川市長が、世界遺産登録について文化庁に要望し、その後平成八年二月に文化庁記念物課長に私と奈良市の文化財課長が要望にまいった時、「日本政府としてとり組む」といわれた時は、本当に嬉しい思いと共にその言葉の重みを全身に受けとめた思いがい

たしました。

四月には、企画部に世界遺産登録推進室を設置し、担当参事をはじめ八人の職員が配置され、専門職員と予算をいただき、登録にむけての作業に入りました。

また、奈良市議会も本年三月二十七日に世界遺産に関する意見書を決議されました。

奈良市は、古都保存法、奈良県風致地区条例、自然公園法、奈良市都市景観条例などで他都市に比してかなりの規制により環境保全が図られており、現行法体系の中で対応してまいります。

奈良には、平城京以来の建造物が数多く現存しており、今も私たちに秀麗な姿をみせていただいていること、又そこに数多くの引きつがれている文化があることを心から感謝したいと思います。

六、「古都奈良の文化財」について

資産の範囲は、

- ① 東大寺
 - ② 興福寺
 - ③ 春日大社
 - ④ 春日山原始林
 - ⑤ 元興寺
 - ⑥ 薬師寺
 - ⑦ 唐招提寺
 - ⑧ 平城宮跡
- で、資産群には国宝二十五棟、重要文化財五十三棟、計七十八棟が含まれ、全体面積は三千百十八ヘクタールにも及びます。

推せんされた特徴として

- ① 春日山原始林が奈良を代表する文化的景観として推せんされたこと。
- ② 正倉院が東大寺の資産に含めて推せんされたこと。
- ③ 平城宮跡が我が国で初めて遺跡の分野で推せんさ

れたこと。

④ 元興寺の指定を受けたことによって、景観形成条例の指定を受けている「ならまち」がバッファゾーンになったこと。

などであります。

このたびの推せんは、文化庁、国立奈良文化財研究所、奈良県、各社寺、奈良市議会はじめ多くの皆さまのおかげと感謝いたしております。

また、この多くの文化財を守り伝えてくれました先人たちに感謝しなければなりません。

私は、世界遺産登録は、私たちの町を作り、守ってこられた私たちの先祖に対する「榮譽」であり、託すべき次の世代の人々に贈る「誇り」であり、現在に生きる私たちにとつても「喜び」でありたいと考えています。

七、まちづくりをめざして

奈良は、残したい日本風景100選に「春日野の鹿と

諸寺の鐘」として認定され、また「ならまち」が都市景観100選として表彰されました。

近年都市的環境が重視され、施策に生かされつつあります。

奈良には、多くの社寺を中心にあまたの伝統行事がくりひろげられています。

東大寺の修二会は一千二百四十六回、春日若宮おんまつりは八百六十二回など……。

是非私たちはこの文化を大切にできるだけ参加したいと思えます。そのことも次の世代へ引継ぐために私たちができることではないでしょうか。

奈良市は平成十年二月一日に記念すべき市制百周年を迎えます。一〇〇年の歴史の重みを考えるとき、私たちはこの町に限りない深い愛着を感じます。

大川市長は平成八年度から、平成十二年をめざす新総合計画の第二期計画のスタートをきり着々と町づくりを

進めています。

奈良市は世界遺産に登録される町を市政の中心の施策にすえて、国際文化観光都市にふさわしいまちづくりを進めてまいります。

間もなく、二十一世紀が到来します。この町が世界遺産登録をいかに活かし、市民全員のご協力をえて、いかに世界に誇れる町にしていくかが大切であり、そのための努力を試行錯誤しながらも精一杯、市役所一丸となって努力いたしてまいりますのでよろしくご指導ご協力を賜りますようお願いいたします。

ご清聴ありがとうございます。

以上

【漢詩】

青春回顧

片桐 一夫

日本前途難澁姿

日本の前途 難澁の姿

當年國是決遷移

當年の國是 遷移を決す

見鞭影走之良馬

「鞭影を見て走る 之良馬」と

持則青春戰遠陞

則を持して青春 遠陞に戦ふ

少年回顧

螢窓徳化及心身

螢窓の徳化 心身に及び

的歴知方清爽倫

的歴知方す 清爽の倫

惕若慎思磨克己

惕若慎思し 克己を磨く

志望高遠少年春

志望高遠たり 少年の春

私の歩んだ道

大橋 一二

私が中野高等無線電信学校を卒業して、新京（現在の長春）の関東軍氣象隊に就職したのが昭和十八年、その後、八日市の陸軍氣象部へ転属、昭和二十年六月応召、八月に終戦により除隊、昭和二十三年大阪大学付属図書館理学部分館に就職、これから私の人生における職業の始まりと言っていだろう。

幼い時から読書が好きで、手当たり次第読んでいた私が、本に関する職業につけたのは喜び一杯の時であった。

ところが、現実はその甘いものではなかった。理学部図書館の独自の蔵書構成を見たとき、手におえない洋書、特にイギリスを中心としたアメリカ、ドイツ、フランス、ロシア語までであるという難しい図書がつまっていた。そこで私の上司である木寺先生に仕事の指導を受けた。

始めて英文タイプの前座に座らされて目録カード作成を命じられた。タイプライターの教本と目録カード作成法の二冊を片手に、与えられた図書の目録の作成にかかった。四苦八苦、漸く一冊の本を二週間かかって仕上げ、先生に見せたら、まだまだ不完全であった。

木寺先生のマンツウマンの厳しい指導によって、図書館の仕事に慣れ始めて来た時、文部省が図書館法成立によって、現在図書館に勤めている職員には、司書と言う暫定資格が与えられる、と言う措置が講じられ、昭和二十六年京都大学で文部省主催の講習を受け正職員になった。

大学図書館を昭和二十八年まで勤めたが、私の図書館のイメージは大衆に対する読書の機会を与える公共図書館であった。公共図書館に移りたい希望を持っていたの



を、木寺先生が心配してくれていた時、奈良県立奈良図書館からの誘いで、待望の公共図書館に移った。

館長の指導よろしきを得て、今まで閑散としていた図書館に、子供達の利用者が寄り集まるようになった。

奈良における五年間が過ぎ、昭和三十八年滋賀県教育委員会より割愛申請があつて、私の郷里の滋賀県に移った。

図書館での生活集大成とも言ふべき二十一年間がここから始まった。当時停滞気味であつた移動図書館の発展と、読書普及活動の推進を主な仕事として命じられた。

先ず移動図書館車を二台に増やし、「螢火号」、「白雪号」と名付け、全県下の五十の駐車を二百五十に増やし、二カ月に一回の周期で配本活動を開始した。ところが、駐車を増やし、巡回回数を増やしても利用者は増えなかつた。そこに何かの問題があると考えた末、根本的な問題は住民の読書に対する考え方を変えなければ解決出来ないと思ひ、配本活動の巡回と併行して、読書の普及を住民に植えつけることにした。この時、最も低調と思われた浅井町の社会教育主事からの申し出により、今までの状況が一変する事になったのである。それは、

同町内の一中学生から寄せられた作文からであった。その作文には、「毎日、朝から夜まで、あくせく働く母親ではなく、毎日の新聞に目を通し、たまには、本を読む母親になってほしい」と言う願いが込められていた。この作文が浅井町のお母さんを動かさずにはおかなかった。俄然、浅井町のお母さん達が奮起して、本を読む運動を開始した。この浅井町のパイオニア的な活動は近隣の市町村に普及し、全県下に広がって行ったのである。

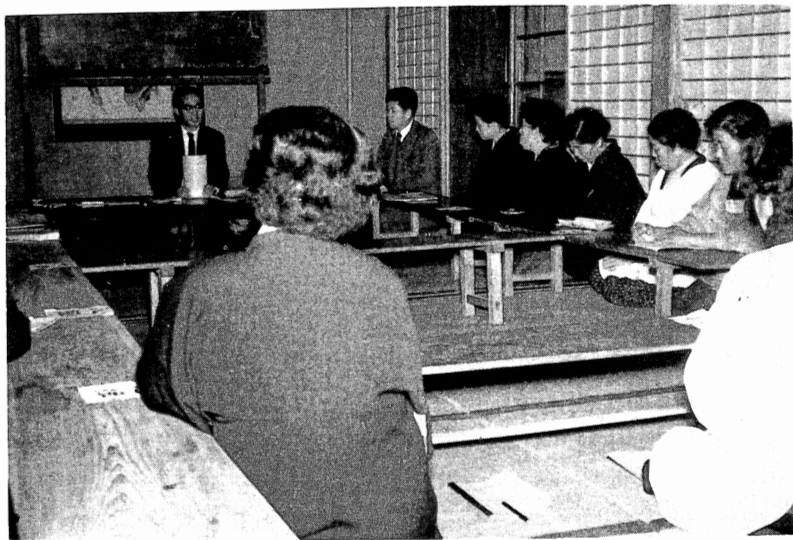
各市町村での読書普及の研修の機会が持たれるようになったのがこの時であった。研修会が活発になり、移動図書館の利用が増加し、読書普及と配本活動の両立成果が見え始めてきた。三十五年に全県的な「本を読むお母さん大会」を開催した。第一回の記念講演には村山りう氏を招いた。雪の降る寒い日であったが、五百人近くの参加者があり、熱の籠った講演に魅入るような熱心さであった。その後、曾野綾子、坂西志保、津村節子、平岩弓枝等の講師を招き、十八回まで続いた。

昭和三十八年頃から読書活動が駐車場ごとに行われるようになってきた。これは、広める読書から、深める読書への進展と言っているだろうか。一方私の仕事は読書会



の育成指導の方向に力を入れる事になった。滋賀県の読書運動はピークを迎え、長野県のPTA母親文庫運動、鹿児島県の親子二十分間読書運動と並び称せられ、全国の各地から見学者が大勢来た。毎日放送から活動の全容をフィルムに収めてくれた事も、成果の一つであった。読書育成指導については、退職まで百六十近くのグループの育成を達成し、私が理想にしていた、村に一グループと言う理想には程遠かったが、まずまずの成功と思っている。

昭和五十三年十月頃、



園田学園女子大学から人を介して図書館学の教員の就任要請があり、五十四年大学に就職した。今まで長い実践活動の経験を教育活動の場に生かす事が出来るのは、望外の喜びであった。

昭和五十四年頃から、滋賀県における読書グループについて研究会や座談会に出席し、多くの人の意見等を書き留めた。それらを整理し、昭和五十六年に『読書会のすすめ方』と言う本を明治書院から出版した。

大学で図書館学と言っても、学生には何を勉強する学問か、掴めない事は当然である。矢張り社会教育機関である、図書館の設置に関する根拠法令である図書館法の説明から入らなければ理解は出来ない。

私は、前期の授業を法の説明に重点をおき、後期からは図書館法を逐条的に現場の仕事と併行する形で進めてきた。

十六年間の教員生活はこのようにして充実した毎日であった。その間、図書室程度の狭い図書館を、十五億の巨額を投じて、近代的な設備を完備し、近隣の女子大学から注目された立派な図書館を完成した事も、大きな思い出の一つである。

平成四年頃から視力が徐々に衰え始め、授業にも支障をきたすようになってきたので、停年より一年早く平成七年に退職した。

病院通いと入院生活を重ね、ついに全盲になってしまった。停年になったら、家内と一緒に旅行の約束もし、種々の事を習ってみたいと思っていたのが、残念でならない。

一時は、前途に希望もなく落ち込んでいたが、家族、友人に励まされ立ち直る事が出来た。

ライトハウスを紹介され、盲人用録音テープを借りる事が出来た。借り始めてから今日まで、三百冊近い本を読了した。一ヵ月一回の読書会の集まりと、本を読む事

が今の楽しみである。

七十四歳の長い人生であるが、今振り返ってみて、本に関する事に携わって来、今、まだ、本から離れられない毎日である。これも、ボランティアの人達の、献身的な支えとライトハウスの協力があつてこそ、これだけの本を読む事が出来る日々を送る事が出来るのだ、と思つて感謝している。



【俳句】

短夜

牧野春駒

黄泉よみの国より戻りきて明易き
手術受く七夕色紙書きのこし
青天に向き形代の目鼻なき
仰臥して大暑の髭を剃りにけり
招提寺飛ひ簷えんを歩む月ありぬ
伊豆の地震な鎮めたまひて神旅に
死を越えてきし眼に紅し寒牡丹
春燈の集つて温泉ゆの町となる
一遍も虚子も辿たどりし花の径みち
石佛に三みつ極またの花明りあり

壬生念佛

伊藤柳紅

火の色となりきし網や諸子焼く
舞台踏む音も囃子や壬生念佛
螻蛄の四肢つっぱつて風の中
残菊の懸命に色保ちをり
貼り替へて障子の軽くなつてをり

涅槃会

岡良子

春愁やつぶやきふえし看とり妻
宵山の銚みな格子がこひなる
身に沈むや手術のあとの頭傷
堂縁を借りて行厨冬うらら
涅槃会の散華天井から降りぬ

連翹の蕾

大浦小枝子

光輪の中におさまる月冴ゆる
マツチ売りの少女現る風花に
冬帽子忘れ来たるを忘れぬし
鶉の来て満開の梅蹴散らしし
連翹の蕾はにかみつつ出でし

花筵

柏木一枝

ころがりし鉢より出づる地虫かな
花筵手押し車の人もきて
頬白の嘴磨きぬし枝芽吹く
萍の花に方向音痴にて
強き草と素直な草をむしりつつ

新茶

寒雀順序あるごと飛立ちぬ

ロンドンのサーモン届くクリスマス

吸物の一椀ぬくし春の冷え

花の下娘はフエルムを入れかふる

過ごし来し日々思ひつつ新茶酌む

喜多まさき

一刀彫

玄室に入りて蜥蜴を驚ろかす

つばくらめこれより下は高瀬川

羽蟻たつ責負ふて済むことぞなし

アトリエは庄屋の土蔵ちちる虫

秋深き一刀彫は膝に彫る

込山山歩

色は何いろ

人づてに聞きし噂も螢の夜

吊されて鯨鯨旅の人睨む

幸福の色は何いろ黄水仙

書初はノラともなれぬ久女の句

色褪せし恋文も焚く菊も焚く

木村長子

お山焼

長旅のもどり来し夜やお山焼

焼山にくつきり残る松みどり

座につきて先づ正面の焼山に

三笠山みそなわすよう雛飾る

何時しかに雛も古りし我も老ひ

坂本よしゑ

新池

重田敦子

坪庭に紫陽花の花ひそと立つ

春の水ブラックバス釣る若き群れ

新池に犬も泳ぎて山躰躑

湯上りの夫と犬に扇風機

踏まれつつ赤のきは立つ葉鶏頭

炭弾せて

辻田しま代

春コート一寸派手目に曾孫抱く

他人様の住まう生家の木瓜を見に

端居して亡夫の年忌の胸算用

炭弾せて心経の声とぎれけり

濁酒お風呂が嫌ひ人嫌ひ

大連紀行

重田山風

夜桜や和束の里に琴の音

花冷えに母来てつくる焦げにぎり

大連は初夏の建築ラッシュかな

春の花咲く爾靈山名もしらぬ

篆刻の石もとめつつ春の旅

雛の前

南村照栄

めしひてもおだやかな帥と雛の前

若さとはまぶしきものよ接木する

秋晴の蛤御門蝶と入る

木枯のあとの青空透き通り

寒晴や諸肌脱ぎて墨を練り

菊車

追ひ抜かれつつ菊車行きにけり

蜂の巢を阿修羅となりて焼きにけり

透明に徹してをりぬ冬の水

薰風の窓に朝餉のレタス裂く

老鶯や峻しくありし廻り道

西田 たまみ

摘草

平城山のいにしえを恋ひ青き踏む

白雲となるたんばの絮解けて

摘草の野にクレヨンの忘れあり

摘草の子を農耕の視野におく

腕に子がねるつくしんぼ握りしめ

福井 としみ

お水取

鐘一打磴を一气にお松明

煤残る竹立てかけてお水取

一刻の憩いでありぬ紙衣僧

堂内の灯落されて修二会終ふ

身仕舞を正す下堂の修二会僧

西山 佐代子

時雨来て

生飯^{さば}抛る関伽井の屋根に春の雪

叱かられて目をそらす犬金魚玉

時雨来て一筆箋をしたたむる

化粧して誰にも会はぬさむさかな

裏木戸に舟立てかけて蘆の角

藤澤 陽子

雪を積む

堀池敏子

縫初の紐ひとすぢに力込め

薪小屋に薪入りきらず雪を積む

葺く花の青めきてあり著莪イリス

黒南風の湖向き給ふ佛かな

帯解きて力の抜けしちちろ虫

散華春浅し

三井サチ子

開眼の菩薩の散華春浅し

夜なべしてしわ伸し置く旅衣

花の上一筋わたる飛行雲

秋雨に落付き仏具磨きけり

写経する戸襖よりの隙間風

猫の恋

牧野和代

校倉の床下広き猫の恋

朝寝して夫婦は同じものを食ぶ

月光を怖るる心ありにけり

小鳥来る鑑真廟の箒目に

釣鐘の厚みに霧の流れけり

寒の水

村上俊子

招かれしは女ばかりの雛の客

往きかへり蜜柑の花の香をまどひ

濁声の鳥の飛び立つ紅葉山

江の電を降りしばかりを時雨かな

湯上りの六腑に沁みる寒の水

野水仙

比良山系湖面にうつり野水仙

花嫁の荷をかすめ飛ぶ初燕

暁の大連合歡も目覚めをり

紫陽花の目に沁む雨の帰国かな

満天星どうだんの紅葉散り浮く露天風呂

森田陽子

牡丹の芽

白梅や凜としてたつ狐つ鹿

雛とのゑにしの歳のおぼろなる

表札の漢字ローマ字さくら咲く

栗の花売らるる牛の一啼きす

神将にみなぎる力牡丹の芽

和田美代子



菊車

西田 たまみ

追ひ抜かれつつ菊車行きにけり

鐘一打磴を一气にお松明

西山 佐代子

蜂の巢を阿修羅となりて焼きにけり

煤残る竹立てかけてお水取

透明に徹してをりぬ冬の水

一刻の憩いでありぬ紙衣僧

薰風の窓に朝餉のレタス裂く

堂内の灯落されて修二会終ふ

老鶯や峻しくありし廻り道

身仕舞を正す下堂の修二会僧

摘草

時雨来て

福井としみ

藤澤陽子

平城山のいにしえを恋ひ青き踏む

生飯^{さば}抛る関伽井の屋根に春の雪

白雲となるたんぽぽの絮解けて

叱かれて目をそらす犬金魚玉

摘草の野にクレヨンの忘れあり

時雨来て一筆箋をしたたむる

摘草の子を農耕の視野におく

化粧して誰にも会はぬさむさかな

腕に子がねるつくしんぼ握りしめ

裏木戸に舟立てかけて蘆の角

雪を積む

猫の恋

堀池敏子

牧野和代

縫初の紐ひとすぢに力込め

校倉の床下広き猫の恋

薪小屋に薪入りきららず雪を積む

朝寝して夫婦は同じものを食ぶ

葺く花の青めきてあり著莪イリス

月光を怖るる心ありにけり

黒南風の湖向き給ふ佛かな

小鳥来る鑑真廟の箒目に

帯解きて力の抜けしちちろ虫

釣鐘の厚みに霧の流れけり

散華春浅し

寒の水

三井サチ子

村上俊子

開眼の菩薩の散華春浅し

招かれしは女ばかりの難の客

夜なべしてしわ伸し置く旅衣

往きかへり蜜柑の花の香をまどひ

花の上一筋わたる飛行雲

濁声の鳥の飛び立つ紅葉山

秋雨に落付き仏具磨きけり

江の電を降りしばかりを時雨かな

写経する戸襖よりの隙間風

湯上りの六腑に沁みる寒の水

野水仙

森田陽子

比良山系湖面にうつり野水仙

花嫁の荷をかすめ飛ぶ初燕

暁の大連合歓も目覚めをり

紫陽花の目に沁む雨の帰国かな

満天星どうだんの紅葉散り浮く露天風呂

牡丹の芽

和田美代子

白梅や凜としてたつ狐つ鹿

雛とのゑにし歳のおぼろなる

表札の漢字ローマ字とくら咲く

栗の花売らるる牛の一啼きす

神将にみなぎる力牡丹の芽



私たちの暮しと微生物

竹西繁行

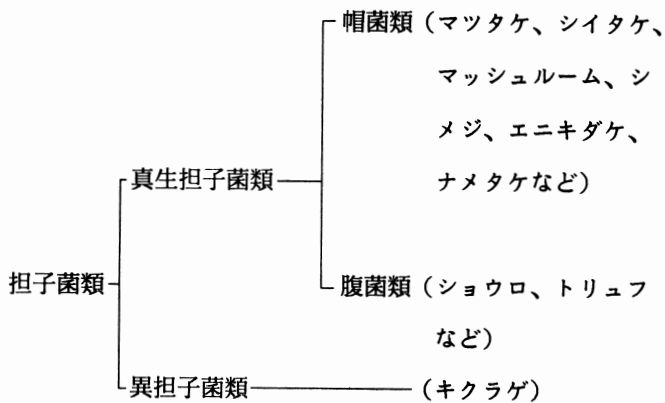
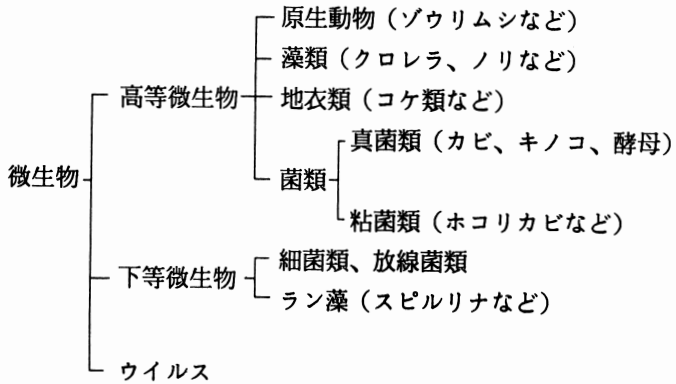
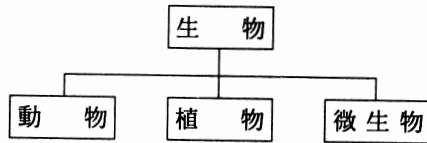
本稿は、去る二月二十三日に開催されました講演会での竹西繁行氏の講演の内容を、ご本人の了解の下に要約したものです。(梶野 哲)

私は、この地域ではスポーツ協会の会長の任に就かせていただいております。日ごろは文化協会の皆様方にも大変お世話になっております。

ところで、私が日ごろ携わっております仕事は、皆様がマスコミを通じて目や耳にされているバイオテクノロジー（生命工学、生物工学）の最も基礎となる物質、酵素、についての研究です。よく、酵母と酵素とを間違えられることがあります。酵母といえますのは微生物、すなわち生き物であつてそれが生きるために体の中で行っている種々の化学反応を効率よく進める機能をもつた物質が酵母と呼ばれるものです。私たち人間も数多くの酵素の働きでもつてその生命が維持されているのです。

ここで、私が勤めております大阪市立工業研究所について少し紹介させていただきます。研究所は一九一六（大正六）年の創立で昨秋に八〇周年を迎えました。現在職員は一一八名で九五名が研究職員で、内六五名が工学、理学、農学等の博士です。ほとんどの人が就職後一〇〜一五年の間に指令研究として与えられた研究課題についての成果によって学位を得ています。研究所の業務は、指令研究、受託研究、共同研究、試験分析、技術相談等です。市内の中小企業の技術援助を目的として設立され、今もその目的には変わりはありませんが、業務の対象企業が市域外の企業あるいは中小企業のみならず大企業へと拡がっております。工業に関する研究所あるいは試

表 1 生物および微生物の分類



験所をもつ市は全国で三市（大阪、京都、名古屋）のみです。

私は生物化学課に所属していますが、他に工業化学課、有機化学課、プラスチック課、無機化学課、機械課があり化学技術を中心とした研究所です。

本日は、食品の分野を中心として私たちの生活に係わりの深い微生物について話をさせていただきます。

今年の夏に猛威をふるい、最近も二、三人の発症が報告されています。大腸菌O157をはじめ病原性微生物も私たちの暮らしとの係わりは深い訳であります。この点は私の専門外でありますので、最後に少しだけ触れさせていただきます。よろしくお願いいたします。

一般に、微生物のことをばい菌と呼ばれることが多くあります。私たちが人間にとって病気の原因となったり、害を与える微生物に限って言えば正しいのかも知れませんが、私のように人間の役に立つ微生物を対象に仕事をしている者にとっては、馴染めない言葉であります。

ところで、本題に入りますが、生物は動物、植物そして微生物に分類されます。さらに微生物は、表1のように分類されます。一つ一つの微生物の大きさは肉眼では

識別できません。例えば、糸引き納豆を作るバチルス・ナットウと呼ばれる細菌は0、三ミクロンから数ミクロンの大きさです（一ミクロンは1000分の一ミリメートル）。日本酒やビールの発酵、パンの製造につかわれる酵母は数ミクロンから数一〇ミクロンの大きさです。肉眼で識別できるのは一〇〇ミクロン以上と思います。おもちゃパンに生えたカビが肉眼で見ることができるのは、数億から数百億の細胞が寄り集まり集団（コロニー）を作っているからです。

微生物を利用して作られる食品は、図1に例を示しますように多くの種類があります。カツオ節などは主にカビの作用によって、糸引き納豆などは主に細菌の力を借りて、ビールなどは主に酵母の作用を利用して作られる食品です。焼酎などはカビと酵母、カマンベールチーズなどはカビと細菌、漬物などは酵母と細菌、日本酒、醤油などはカビ、酵母および細菌と言うように二種類あるいは三種類の性質（力）の異なる微生物を組み合わせてそれぞれの能力をうまく利用して作られる食品があります。

清酒や醤油、みその製造に用いられるカビ（アスペル

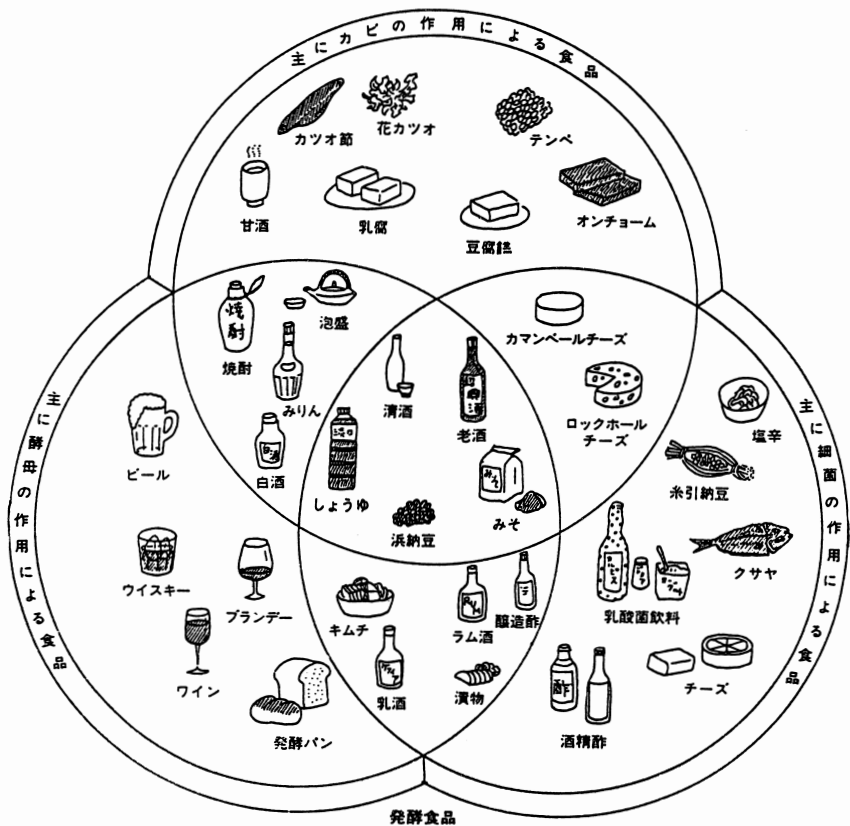


図1 微生物を利用した食品群

ギルス・オリザエ、黄コウジ菌）とおもちによく生える黄緑色のカビの仲間です。ブルーチーズの製造に用いられる青カビ（ペニシリウム・ロクフォルティ）と抗生物質、ペニシリンの生産に用いられるカビ（ペニシリウム・ノタータム）は仲間同志ですし、みかんによく生える青緑色のカビもその仲間です。また、清酒やビール、ワインなどのアルコール発酵に用いられる酵母とパンの製造に使われるパン酵母とは仲間同志です。沖縄料理の一つ、乳腐の製造に使われる紅コウジ菌は、紅酒、紅酢の製造にも利用されています。また、この菌が作り出す紅色の色素はゆで蛸の着色に使用されています。この紅コウジ菌が血圧降下作用をもつ物質を生産することが認められ、この菌で作って麴が特定栄養食品素材として認定されています。

お酒について考えてみますと、日本酒、中国酒、韓国酒とそれぞれ特徴のあるお酒があります。いずれも、原料の米でん粉をコウジを使って糖化し、糖化によって得られたブドウ糖を酵母によってアルコール発酵させます。ここで用いられるコウジの製造に使われるカビがそれぞれのお酒（国）によって違います。日本酒のコウジには

アスペルギルス・アリザエが使われ、中国酒や韓国酒にはリゾプス（くものすカビ）またはムコール（ケカビ）が使われ、原料の米の違いとともに特徴あるお酒となる大きな要因となっています。

ビールやウイスキーの製造の際にはでん粉の糖化にカビ（コウジ）を使わず、原料である大麦の麦芽がもっている酵素（アミラーゼ）によって糖化を行います。ワイン（ブドウ酒）の場合は、糖化工程がありません。ブドウの果実に含まれる糖（ブドウ糖）を酵母によって発酵させるのです。

日本酒の味（風味）がそれぞれの蔵（メーカー）によって異なるのは、それぞれの蔵つき（その蔵にすみついていると言う意味）の乳酸菌の性質の違いによるところが大きいと言われています。醤油やみその場合も同様です。

糸引き納豆を作るのにはバチルス・ナットウという細菌を使います。これは稲ワラについている枯草菌とよばれる細菌の仲間です。元来、蒸した大豆を稲ワラで作った筒で包んで、ワラについた細菌の作用で作ったものです。大豆にはシクロロース（砂糖）と言う、ブドウ糖と

果糖から成る二種類が含まれております。このブドウ糖をバチルス・ナットウが食べてしまい、果糖の方は食べないで鎖のように繋いでレパンという粘り気のある物質に変えます。また、大豆の蛋白質の中に沢山含まれるグルタミン酸というアミノ酸を少し形を変えて繋ぎ合わせてポリグルタミン酸と呼ばれる粘り気のある物質を作ります。この二つの物質が糸引き納豆の糸の正体で、納豆のうま味の要因の一つです。

カツオ節の場合は、先ず蒸したカツオの身を天日に干してから日陰に入れておくとし身の中に残っている水分が身の表面に出て来ます。そこにアスペルギルス・グラウカスというカビを植え付けると、カビが水分を吸って外へ汗のように出しますので身の中まで完全に乾燥することが出来ます。と同時にカツオのうま味の正体であるイノシン酸と呼ばれる物質が大量に生成します。昆布のうま味の正体はグルタミン酸というアミノ酸です。

チーズは、原乳にスターター（乳酸菌）を加えると牛乳中の乳糖の一部を分解して乳酸を作りますので、酸性になり、つぎに加えられたレンネット（凝乳酵素）の作用で少し変化を受けた牛乳の蛋白質が凝固し易くなりま

す。昔は、子牛の第四胃から採取したレンネットのみが使われていましたが、最近ではムコール・ブシラスというケカビの一種が作りますレンネットと同じ働きをする酵素が多く使われております。また、牛の本物の凝乳酵素レンネットの遺伝子を使って大腸菌に作らせる研究も進んでいます。

カマンベールチーズはケカビ、ビルーチーズは青カビを使って熟成させ独特の風味を作り出しています。

今までは、カビや細菌など微生物を使って作った食品についてお話しして来ましたが、つぎに微生物そのものを食品としているというお話しをします。

皆様方はシイタケなどのキノコを沢山食されると思いますが、マツタケをはじめ全てのキノコはカビの仲間です。マツタケも一九七〇年には約二〇〇〇トンが生産されていましたが一九九〇年には五〇〇トン以下に減っています。シイタケ、ブナタケ、マイタケ、ヒラタケ、エノキタケなど多くのキノコが人工栽培されていますが、マツタケの人工栽培は未だに成功しておりません。世界中で最も大量に栽培され消費されているキノコはマッシュルームです。

表2 細菌の世代交代時間

菌種	世代時間* (分)
腸炎ビブリオ	8
海水ビブリオ	10
大腸菌	17
コレラ菌	21
サルモネラ	21
プロテウス	22
赤痢菌	23
ブドウ球菌	27
枯草菌	35
ボツリヌス菌	35
シュードモナス	45
アクロモバクター	55

* 世代時間：一つの細胞が生成し、分裂して2個になるまでを1世代といい、これに要する時間を世代時間という。

すから、自分たちの性質を変化させどんどん耐性をもった細菌が生まれてくるのです。肺結核の特効薬として脚光を浴びたストレプトマイシンは、主に土の中に住む放線菌の一種、ストレプトマイセス・グリセウスが生産します。最近ではストマイ耐性（ストレプトマイシンに抵抗性の）の結核菌が出現し、結核患者が増えて来ております。

ここまでは、私たちの暮らしに役立っている微生物の話をいたしました。ここで、工業製

藻類では、ノリ、クロレラ、スピルリナが食品、健康食品、家畜の飼料等として利用されています。

話が変わりますが、アルコール以外の発酵生産には有機酸発酵、アミノ酸発酵があります。有機酸発酵ではリンゴ酸やクエン酸が食品に、グルコン酸が工業原料に利用されています。アミノ酸発酵ではグルタミン酸、リジン、アスパラギン酸等が調味料、医薬品などに利用されています。

医薬品として重要な位置を占める抗生物質はペニシリン

ウム（青カビ）やストレプトマイセスなどの多くの放線菌によって作られます。青カビの一種、ペニシリウム・ノクタータムがペニシリンを生産することが、一九二九年にイギリスのフレミングによって発見され、一九四〇年代初頭に商品化されました。ペニシリンをはじめ新しい抗生物質が使われ始めた当初は非常によくその効果を發揮しますが、次第にそれぞれの抗生物質に抵抗性の細菌が出現してきます。抗生物質による治療の対象は細菌の感染による病気ですが、細菌は世代交代が非常に早く

（表2）、平均数一〇分で遅くとも一時間位で

品の品質を低下させたり、食中毒や病気を引き起こし私たちの生活の害になる微生物についても少しお話しします。

木材製品、繊維製品、皮革製品などに繁殖してそれらの材質の強度を劣化させたり、変色あるいは着色するカビや細菌もいます。プラスチック製品、鉄、アルミニウム等の金属製品も微生物の被害を受けることがあります。しかし、この場合はそれらの製品に付着している有機物の汚れを餌として生育し、代謝物である酸などによって金属が腐食したり、プラスチックの劣化が起ることが多いようです。

これら工業製品に生育する微生物が私たち人間の健康に直接害になるということはほとんどありませんが、食品、とりわけ肉類など動物性食品に生育する細菌には食中毒の原因となるものが多くあります。私たちの生活環境には多くの種類の微生物が無数に存在しております。それらのほとんどが私たちには無害であります。病原性の微生物の生育条件は一般の微生物に比べて非常に限定されたものであります。これは全くの私見であります。最近の食中毒に関するニュースなどから、食中毒の原因

となる細菌の環境への適応性が高まってきたのではないかと考えます。しかし、食中毒の原因となる細菌の種類も限られていますし、どこにでもいるという訳でもありませんからあまりに神経質になる必要はないと思います。

少し注意を払っていれば十分だと思います。すなわち、台所、調理器具を清潔に保ち、特に、まな板、布巾は使ったら洗剤でよく洗って常に乾燥するようにし、一週間に一度くらいは塩素系の漂白剤で殺菌するのが良いかと思えます。食品は低温で保存する方がよろしいが、冷蔵庫を過信しないこと。微生物は低温（冷凍庫でも）では死にません、世代交代の時間が長くなるだけです。生鮮食品はあまり買いためしない方が良いでしょう。冷凍食品を解凍するときは室温に置かず冷蔵庫に移すか、電子レンジを利用して解凍した食品は速やかに調理するのがよろしい。食材に食中毒の原因となる細菌がいなくても一般細菌は必ずあります。一般細菌でもあまり多く繁殖しますと食材に悪い匂いがついたりして品質が低下します。調理の際には、加熱する場合は十分に加熱し調理後はなるべく早く食べることに。生で食べる野菜などは水道水で十分に洗うことで食中毒は防げると思います。

「もう」「まだ」どちら？

廣田好實

平城ニュータウンに最初の居住者が住みついて今秋が25年目。奈良市は来年2月1日が市政100周年なんですつてね——そんな言葉を地域のだれかれに掛けてみる。

「もう」と思うか「まだ」と感ずるか。そこんとこの当て推量はむずかしい。各人各様、貴重な人生経験測に基づいての判断力が働くだろうから。

「もう、そんなに経ちましたか」と驚くのはご老体に多い。タウン誕生時、近鉄高の原駅はやや南寄りの鉄路沿いに板敷の仮設ホームが一本きり。冬、乗降客は吹きさらしの風に震え、夏は汗をぬぐって電車を待った。無情にも急行通過駅だった。

むろん駅前広場は草ぼうぼう。平城高校は野鳥さえずる雑木林。市北部出張所と向かい合ういまのアカデミー教室の建物が唯一、住民のマーケット・近商（サンタウシンの前身）だった。「もう……」にはそうした過去への追憶が重なり、現状満足の意が含まれるようだ。

このまちへ引越してきて間もない人と、最近酒を酌む機会があった。「拓けてからまだ25年なんですか!! 若いんですね、このまち」と彼は言った。青年期から熟年期へ向けてのさらなる開発・発展への期待感を膨らませて、彼は言葉が続けた。

「タウン全域がしつとりと落ち着いていて、環境まさに良。ミドリがふんだんだし、パチンコ屋やバーがゼロ。気に入りましたヨ。」

ただ、難を挙げれば文化施設が乏しい。これだけの人口を抱えるんだから、公営の図書館や多目的のコミュニティ・センターがあつていい。ホテル形式の宿泊施設も手近に欲しい。友の遠方より来る“その都度、市中や京都へ送迎するのはしんどいですからネ”。

ニュータウンのいまの姿を、成熟とるか未熟と見るか。この一点だけにしぼっても、いやはや反応は千差万別のようなのである。

随想

辻ヶ花

荒居智子

良く晴れた春の一日、或デパートの和服の展示会を見るべく、三階にいった。

会場は琴の音が静かに和の世界を盛上げている。

それぞれの染めの技術を賭けて見事だ。中程迄見て私の視野が一ヶ所に止まった。見事な辻ヶ花の衣裳である。染めの技術の不思議な調和の美である、一つの単色を重ね重ねて現われる深い色彩をもつ辻ヶ花は見る者に語りかけて来る美しさである。

この辻ヶ花と言われる染めは、室町時代から桃山時代にかけて行われた模様染めの一つで彩色の描絵を加え、時代が進むにつれて、摺り箔なども加えられたが、戦前戦後衰退していたものを、甦らせたと聞く。

私は以前蚕に関わる仕事をしていたので、絹には特別

の思いがある。約三センチ程に育ったそれぞれの箱の蚕を播遣し、体液を顕微鏡で見て病菌の有無を調べる検査の仕事をしていたことがあって、絹には特別の思いがある。黒い蟻のような蚕の幼虫を人間の中指程度に育てて透きとおって来た蚕を選んで上簇させる、簇まと言う藁の巢に入れる、蚕は其処で脚を藁にかけて自らの体から糸を吐き内へ内へと糸を吐き乍ら蛹となって眠る、そして白く輝く繭となるのである。

春風にわかゆの桶をいただきて袂もつじが花を折るかな。

読み人知らず

母の日

木村長子

この四月十八日、久し振りにサントウンの二階をのぞいてみると、「母の日コーナー」というのをやっていた。なつかしいな——、私もこの「母の日」を忘れずに実行していた曾ての娘、嫁であった遠い昔もあつたということと。

この行事は、母を讃え感謝しようといふ世紀の始めにアメリカで始まり、大正期にも日本にも伝わってきたときく。やたら「〇〇の日」と宣伝多い昨年だが、その中でこの「母の日」はしっかり成功したといつてよいのではないだろうか。

初期の頃は皇后さま（現在の皇太后）の誕生日の三月六日とされていたのが、戦後は本家に合わせて五月の第二日曜日となり、益々商魂先導で定着したかに見えていく。

私の在満時代（昭和七年から昭和十六年）その頃はま

だ左程「母の日」は喧伝されてはいなかったように記憶するが、私の心の中の「母の日」が折りにふれて当時まだ日本では珍らしかつたロシアチョコレートやクッキーの類を、やがて帰国して東京暮しの割合裕福に省庁勤務をしていた頃は、日本橋の三越本店から母に似合いそうな反物や博多織の単帯など、決して美人ではないがすうりとスタイリスタの後姿の良かった母へのプレゼントを奮発したものであつた。

やがて戦争が激しくなつて日本中が修羅地獄となつた末期にはとても「母の日」どころではなかつたけれど、それもどんな形にもせよ終結して徐々に世の中が落ち着きを取り戻してきた頃、「母の日」は再び復活してきたのである。

そして時代の流れに止むなく私は再婚をし、姑という立場の人が出来てからはいつもこの「母の日」には姑と

里の母に同じ物を二つの包みとして京都より田舎へ発送するのが慣らわしであった。それは嫁として娘として当然の義務であるかのように当時わが家計は余り豊かではなかつたけれど何かしら見繕って送り届けた。これを慰みの少なかつた昔の女である母親たちにとつてはささやか乍らも必ず届く年に一度の定期便にのせる小さな期待と詫びであつたらうと今も思っている。しかしその二人の人たちもすでに遠い所へ逝つてしまつて、私にはその義務のような恒例のしきたりも無くなつてしまつた。

今、私は立場としてはその贈られる側に立つている身ではあるが、この「母の日」のプレゼントというものを手にしたことは一度もない。贈る立場にある人間の一人や二人はあるにはあるけれど、これはあくまでも見解の相違であつてどうこうと歯牙にかける程のことでもない。時折この時期、特設コーナーで見かける贈られるべき側の母親と同伴であれこれと物色している娘の姿、又ある時には姉妹らしき二人連れが何かと相談し合つているのに出くわすと、そこにはほのぼのとした母の愛そのものをかいまみる思いがする。

しかし、戦後家族制度が核分化して今ごろの子供たち

としては養育への恩義は恩義としても、もつと気楽につき合つて貰いたいのかも知れない。

「母の日の母にて母の娘にて」
(京極杜藻)

高齢社会のこれからの母親像は、今後果してどのように変つてゆくのであろうか。

きんさん、ぎんさんに近い齢までもの母親の後どころはご免だなど、つくづく「母の日」に思う感慨に居る。

平成九年五月十一日母の日に

—私の雑記帖より—



故永田喜一郎さんのこと

平城ニュータウン文化協会の初代事務局長の、永田喜一郎さんが、平成九年三月三十一日、逝去されました。誠に悲しい事でございます。

ここに、網干善教会長の弔辞と、同好会で永年親交のあつた田中幸夫氏の追悼の詞を掲載致しまして、永田さんのご冥福を祈りたいと存じます。

その前に、永田さんの略歴をご紹介します。

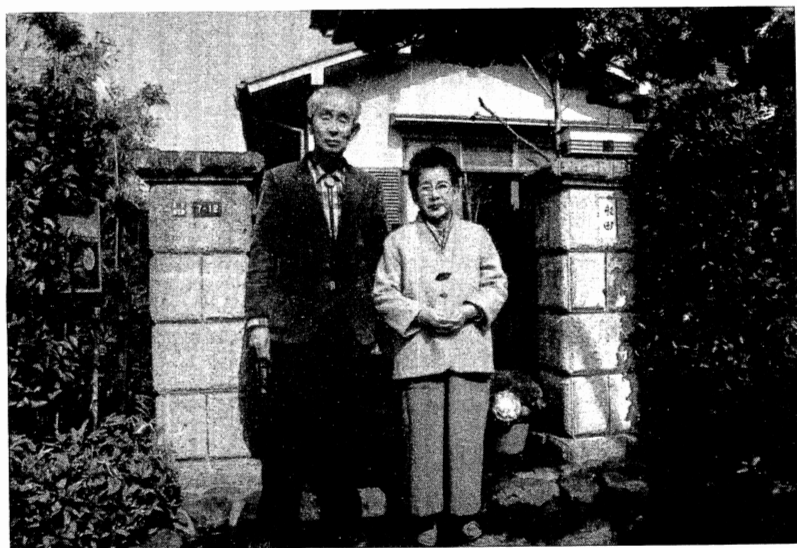
永田さんは、明治四十五年二月十三日、京都で誕生されました。その後、立命館大学商学部を卒業され、京都府庁に入庁。昭和九年、キミさんとご結婚、二男二女ご誕生。昭和三十年日本住宅公団の設立とともに入団、昭和四十一年十二月に初代奈良営業所長として着任されました。昭和四十五年二月定年退職、(株)浅沼組、(株)富士工にお勤めの傍ら、国内のみでなく広く海外にもカメラ修行の行脚に出られました。

特にシルクロードに魅せられ研鑽を積まれました。

昭和五十二年一月三十日永年住み慣れた京都からこの地に転居して来られました。当時の日本住宅公団関西支社長青樹英次氏が「ニュータウンを人間らしい町にするには、机上論では駄目だ」と思われ、出来たばかりの平城第2団地に居住され、駅前清掃奉仕等に尽力されたのに、啓発されたそうです。

その後、昭和五十五年から五十七年の三期、右京四・五丁目自治会長、平城ニュータウン地区自治連合会副会長、文化部長を歴任されました。

その間、平城ニュータウン文化協会設立に尽力され、昭和五十八年に発足後は、網干善教会長を補佐する事務局長にご就任になり、自ら拓本を楽しむ会や地酒の会等のユニークな会の発起や短歌の会など、幅広く活動されました。特に最近はカラオケに専念しておられたそうです。



弔 辞

謹しんで故永田喜一郎様の御霊前に、平城ニュータウン文化協会を代表して追悼の意を表したいと思ひます。

文化協会は、今から十四年前、一九八三年二月二十八日、当時の平城ニュータウン自治連合会の要請により、地域住民の文化的生活の向上のため発足致しました。

貴方は、当時、右京四、五丁目自治会長、自治連合会副会長を歴任され、自治連合会文化部長として、基本計画を作成されました。

貴方の熱意とご尽力によって、地域各種団体あげてのご支援を頂き、文化協会が創設されたのです。

貴方は、その後も、初代事務局長として、会の運営にご努力され、今日の基礎を確立して下さいました。

その間、シルクロードの研究の旅や写真家として活躍をされるかたわら、拓本を楽しむ会や地酒の会など各種のサークルの結成にも尽力をされました。

お蔭様で現在多数の会員となり、それぞれの活躍を通じて、有意ある市民生活を送られています。

将来なお充実発展を見守って頂きたいと思っておりました矢先、訃報に接しました。誠に残念です。

貴方は、いつもお元気で、活動に次ぐ活動の一生でしたね。やつとほっとされたのでしょうか。安らかにお眠下さい。

ここにご生前の文化協会に対するご功績に感謝し、惜別の言葉と致します。

平成九年四月三日

平城ニュータウン文化協会

会長 網干 善教

永田喜一郎氏を偲ぶ

田中 幸夫

永田さんに初めてお会いしたのは、私が右京四丁目に住み始めてしばらくした昭和五十五年頃で、永田さんは右京四・五丁目の自治会長をされていました。

永田さんの発案で、近隣公園でも盆踊りをするこ
とになり、そのための樽購入のための寄付集めに奔走されてきました。

その後、永田さんの提案で始まった地酒の会の例会や文化協会の発足などに参加させていただきましたが、中でも地酒の会の四国——への旅、船中
でいろんな話を聞かせていただくことになりました。
クイーンエリザベスに乗船、カリブ海を旅する中で、羽織袴でダイナーに臨んだ話、モンゴル族の住居ゲルに泊り、タシケントでは迷い子になりかけたシルクロードの旅の話など、私たちに羨望と同時に

夢を与えてくださいました。

永田さんは、その後も次々といろんなことを発想されましたが、疑問に思うことはかならず質されました。

「寒風吹きすさぶ高の原駅ホームに待合所は必要だと強く指摘されたのも永田さんでした。

折りしも近鉄の運賃値上げが申請された時期で、私は大阪で開かれた公聴会で公述人としてこの問題をとりあげました。その一年後待合所は新設されましたが、永田さんは住宅公団の奈良営業所長を退職されたのちも、右京の住民として新しい街の先達として故郷づくりに多くを残してくださいました。
私たちも永田さんの生き様にすっかり学んでいきたいと思えます。

ありがとうございました。

合 掌

【短歌】

高松塚発掘二十五年

網干善教

遠つ世に悲しみ秘めて描かれし壁画の人はいまも色あせぬ
かく誰そ今なお知れず古しえの壁画描きし人の情けは
はじめみし壁画の色はいまもなお興津城の世にあざやかにさゆ

道東紀行

道東の海辺を駆ける一輛車座席は空きて十人に満たず
冬去れば流水溶けて砂浜に花咲き匂うオホーツクの海
網走の寒かりし房^{へや}収監所話しにまさる脱獄の人
その昔鯨の海は賑わいてあさき夢見た港はいかに
北方の沖の彼方にあるを知る他国の治むわが国の島

丹後の大墓

日^ひ葉^は酢^す媛^{ひめ}生れし雪の北の国大王に嫁して狭木（佐紀）に眠れり
丹波なる網野の銚子竹野里^{たけのき} 神明山に大和を想う

風立ちぬ

荒居智子

自転車を止めて春晝の石道に轉り高き妻達の声

摒しめて凌霄花の花ひらき宙にとどまる鶴の羽根なる

風立ちぬいざ生きめやもと呟きて金木犀の花殻を掃く

さつま芋五本を洗い切り刻み飛火野の鹿に逢いに行きます

黒き目に残る紅葉の影写し雌鹿はサリサリとさつま芋食む

花の冠

宇野木久代

ひよ鳥も一羽摒にてしよんぼりとパン屑まきて「おいでここまで」

朝の客きらわれもののひよ鳥も吾の顔みて餌ねだりおり

椿散る山路を里の子がやがやと花の冠ペンダントの花

賑やかに子ら行きしあと山静か雉子は頭上げあたり見回す

メ切もせまるとゆうにいくたびも書きては消しぬ同じ歌のみ

老文鳥

大浦 小枝子

七年余を生ききし老いし文鳥は羽毛不揃ひに肌を見せゐる

餌箱に掴まる姿は歪にて鳥の形は老いてくづれる

轉りも少なくなりて文鳥は番ひ亡くせし後を生き継ぐ

幾許の未来のころや知らずして明日待つ心老いとは不思議

庭隅に頭を擡げし落の簿「今年の出席とります一……二……三……」

今日は明るし

岡田 越子

初女孫の「生まれた」と云ふ知らせありお茶の稽古もそはそはとせり

「紗英ちゃん」と呼べばかすかにわかるがににんまりとするみどり児かこむ

初孫に初曾孫と重なりて生れしみどり児幸せ背負ふ

「紗英ちゃんじいさんばあさん来てくれたよ」云はれて少し初ばばはにかむ

昨日暗く今日は明るし薄氷を渡るが如きあやふき日々よ

うつくしきもの

片桐 一夫

萬緑に白き瓊花のかおり満ち鑑真和上の墓所しずかなり

春夜空仰げば豊饒いわうがに乙女座の星スピカ燿く

小納言の申せし如くうつくしきは八つ九つの音読の聲

「鞭影を見て走るこれ良馬」と士則を心に戦いし青春

師の君の励ましたまいし忠孝の家訓に育ちし少年の春

師を悼む

木庭 和子

ま盛りのくちなし匂ふ雨の日に師の訃届きぬ みなづき哀し

吾が一生の若葉の季節を彩りし華のゑまひの君にてありし

あすか路を行き廻りたる若き日の史説くお声耳に鮮らけし

晩年を遠きあづまに移り棲み万葉かたりき卒寿の君は

還りませ疾く八尋白智鳥と化りてなつかしき大和まほろばの地に

砂ずりの藤

沢田実子

梅の香にさそはれ訪ふ鶯のいまだ幼き囀り聞こゆ

山桜ひそと咲初むる山の辺の谷に廃材散らばりてをり

疵のあと深くのこれる老木の花艶やかな砂ずりの藤

くれないの一葉夕日にかがよへり紅葉尋ぬる旅を夢見る

椋鳥は梢と屋根にさへづりて番となりしか揃ひ飛び立つ

風も春陽も

玉置小代

すやすやと吾が腕に眠るみどり児に大きなちから育てと思ふ

まぶしげに産院出づるみどり児をやさしく迎へよ風も春陽も

わが庭に紫木連の花咲き初めぬ霧のごときの雨をまとひて

甘やかに貴夫人のごとくカサブランカ凍と開きて今朝は夏空

はかなげに薄黄色の蝶迷ひ来る冬きざす庭とまる花なく

想い

中川 都哉子

赤児なりしわが写真見つつ思ふかな生き来し月日の夢とうつつを

かわきたる大根の香と陽の匂い切りばし大根に母の匂いす

枯草の程よき丈たけにくるまれて猫睡りいる斜面よぎりぬ

遠き過去に消えたる人をたまさかに恋う日のありて連翹咲きぬ

わが汚れはらはらはらとはがれゆくみずきの花群俯瞰するとき

流水

仲谷 信子

流水にのりて揺れいる海わいて綱走の海の碧の目にしむ

綱走の海の動哭海鳴りが碎氷船を激しくたたく

白馬かける雄姿と見えて阿寒富士群青の空にそそりて聳たつも

船窓ゆ見る流水はうす紅の優佳良織の帯のごとしも

くれそめし小樽の街のコーヒー店シャンソン流れて旅情せつなし

炎

福井 秀子

暮れなづむ琵琶湖に華の掛けごゑを残して娘らのカヌー帰れり

歳末に夜回りの子が打ち鳴らす柏子木の音冬空に響く

長雨の止みし芝生に蒲公英の幾つ咲きあるぬくき日溜り

夕映えの若草山に凧二つ銀色に舞ふをカメラに収む

闇空に松明の列登りゆき若草山に炎の走る

一輪車

藤原 香

一輪車乗りし幼な子バランスを巧に取りつつ遊歩道行きけり

芭蕉碑の拓本をとり湖の広きを眺め昼食を摂る

業平が彫りしと伝うる佛像の天衣をかける姿愛らし

受験終え母亡きのちに久しぶりバイオリンの音ひびく孫の部屋

ダム湖背に小舗並べば梅が香に誘われにつつ草餅を買う

香りくる花

松村 せつ子

新しきネクタイしめて赴任する夫は私の知らない顔で
留守たのむ電文のごと言いいおいて夫は異国の任地に発てり
賜わりしくちなしの花香りゐて異国の夫がふいに恋しき
香りきて月下美人はひらきたり一夜の花の生命愛しも
木犀の香りは喜び運びくる任務を終えて夫帰り来し

四季

森田 陽子

枯れ枝の突き立つ空の果てにして薄くれないの初春の雲ゆく
亡き妹の縫いしコートの紫を肩にまどえば春はおぼろに
しがらみも在れどうかと春の宵 雛の宴の白酒を汲む
大連を離れて五十年我が家は今なお在りて桐の花咲く
玻璃窓に蟻の動かざる真昼間を百日紅燃ゆ 甲子園燃ゆ

祈り

山崎 たみ子

「火の用心」を念ずる慣らい速く住む難聴の娘の出勤の頃

九十の母の畑へ出でゆける春早く来よ根雪解かして

チューリップ、水仙、木蓮花芽みな祈りこめたる掌のかたかなす

上弦の月は輝き笑む如し友と語りて安らげる日に

夕暮れて木もまた眠りたきものを電飾さるるは厭わしからずや

棉源 暎子

南無業師悔過と濟度の結願の和讃絶唱おぼろ夜の堂

ミュージカル良弁杉のフィナーレの南無観声明涙して聴く

主の教え弘むと子連れの一群れが戸毎に空しく声残し去る

わからぬとはつきり言いし人おらずピカソ展の招待客みな

竹やぶに秋残照のほのあかく雀啼き交ふ秋篠の寺

グループからの便り

歴史教養講座

渡邊 千津

今年は辻松塚古墳、壁画発見二十五周年目で次から次へと関連行事が続き、お忙しい網干先生ですのに、毎月第二週目の火曜日には、ちゃんと歴史教養講座が始まり、会員一同非常に感謝致して居ります。

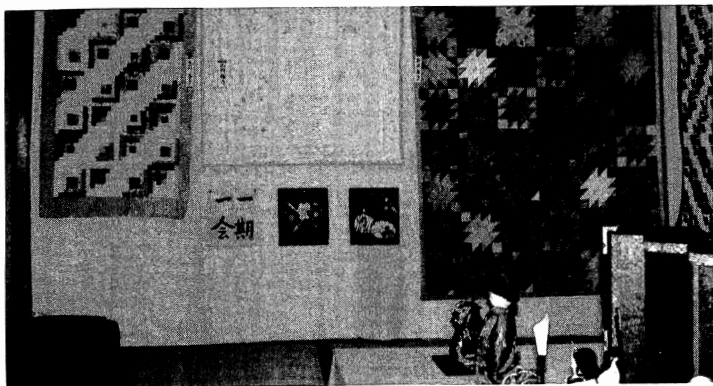
先ず初めは最近新聞、テレビで報道された古代考古学に関する発見、発掘等の解説、又今年も携わっておられますインドのマヘート遺跡での発掘秘話、その他言葉遣ひや漢字の成り立ち等について幅広い含蓄に富んだお話しが続きます。

そのうち、昨年中で特に印象深かったのは、

六月 島の山古墳発掘に関する講義。

七月 姫路城内堀から見附った瓦経から、先生が瓦経を研究して居られるいきさつ等について。

十一月加茂岩倉遺跡で発見された銅鐸に関連して、大



一期一会

学並の資料によるお話し。

一月 先生が今年年賀状に書かれた、「喬松永壽」と

言ふ言葉の意味。

等々でした。

お話しが佳境に入りますと、とても時間が足りません。それで？、それから？、と思わず身を乗り出してしまいます。そうなりますと看板の「日本書紀」は何處へやら……と言っても、欽明天皇の時代から始まった講義は、敏達、用明、崇峻と進み、唯今推古天皇の御代迄進んで参りました。小学校で習った聖徳太子の「十七カ条の憲法」を詳しく復習させて頂きました。それにつけても、今の世にそっくり當てはめて守ってもらひたい様な條文も多々有り。流石に十七条の憲法と納得致しました。そうこうする間にもうお時間、二時間があっけ無く過ぎてしまいます。

なほ毎回楽しみに致して居ります大和路見学会。今年の第一回は磐余地方の古墳を幅広く見学致しました。第二回は山辺の道の古墳、御陵めぐりでした。

私事で恐縮ですが、先日女学校の同窓会が有りました。それぞれに若かりし古き良き時代を懐かしみ、あの頃が

一番楽しかったねと話合いました。でも私は今も楽しいと思つて居ります。平城ニュータウンの文化協会で好きな講義が聞け、新しいお友達にも巡り会えたればこそです。矢張り私は勉強と名のつく環境に身を置くだけで心安らぎ、自己満足して居る古い型の日本人だあと自負致して居ります。どうぞ平城ニュータウンにお住いの皆様、こんな楽しい勉強になる講座、我等が誇る綱干先生の歴史教養講座を是非御聴講下さい。

此の頃は、男の方も多数お見えに成つて居ります。私が始めて歴史教養講座に入れて戴きましたキッカケは、先生に「歴史教養講座に入れて頂きたいのですが、途中からでもよろしいでしょうか」とお伺ひ致しました所、「いいですよ。何時からでも。毎回読切りですから」と仰言つて下さった言葉が、今でも脳裏から離れません。

年間たった千五百円の授業料で、喜々として、毎年現役に留り続けて居ります私達ですが、先生これからも引き続き御指導下さいませ様、紙上を借りてお願い申し上げます。

詩吟の会

中西 廸子

私が高の原に安住の地として参りましたのは、丁度元号が平成となった年の二月でした。それからもう八年、歳月の過ぎるのは早いもので感慨無量の思いです。

これまでは、主人の勤務の関係で全国各地を転々とする慌しい生活の連続で、それぞれの土地風土に馴染み、お友達ができて直ぐ別れなければならぬ転勤生活のため、落ちついて趣味を楽しむ余裕もありませんでした。

ところで、最後の地方生活となりました長崎は、開放的で明るい土柄から、ことのほか親しみを覚え、私の一番好きな思い出深いところとなりました。

ここでは人々の心あたたかい交流が盛んで、人々の集いの会が多く、その会の後で懇親会が度々催されるのが習慣でした。

ある懇親会の席上で朗々と美しい声で吟じられた方の詩吟に聞きほれたと申しましょうか、私もあのように吟



高の原吟詩会新年会



高の原吟詩会新年会

じてみたいものと感じた次第です。

この様なことがありますて、高の原に参りました翌年、お正月のNHKテレビで放映される新年の吟詠をみて、益々関心が高まって参りました。

丁度その頃、文化協会で詩吟の会があり、熱心な吉本先生がご指導なさっておられることをお聞きして、何んの知識もないのに突然直接先生のお宅にお伺いして、お話を拝聴したのが詩吟への第一歩でした。

その時、当時ご健在でしたお奥様にお茶をたてて頂いたのがつい昨日の様に思い出されます。

これまで歌心のない私が、今では何んとか会の皆様とご一緒に吟じられ、県の大会にも参加できるまでになれたのは、吉本先生の、ご熱意によるものと感謝しております。

昨年伊豆方面へ旅行に出かけた折、十国峠で美しい富士山の雄姿を眺めた時、自然と「仙客来たり遊ぶ………」と声が出て朗詠したくなり、一人心酔した次第です。

さて、この高の原吟詩会は真風流日本詩歌吟詠会に属し、会の皆様はご熱心に水曜日に集って練習を重ねておられますが、一方楽しい雑談の一刻もあり世間話に花が

咲くこともございます。

前期、後期に昇級、昇段のテストがあるのも練習の励みになり、また季節のよい春秋に真風流の会で歴史探訪と称してバス旅行があるのも楽しい行事の一つです。

平城ニュータウンの文化祭の上演の部にも、参加させて頂き恥しながら吟詠しております。

昨年末、入院され胃を手術された吉本先生は、回復後、益々お元気に若返えられご指導に倍旧の熱情を傾けておられます。

最近、九十三歳の方が入会され、お元気な吟詠を拝聴し、詩吟のよさをしみじみと感じております。

詩吟は美しい日本人の心や自然をうたい上げており、朗吟は、健康的でストレス解消にも役立つうえ、姿勢もよくなり、若さもよみがえってくる様に思います。

どうか多くの方が入会され、この会が益々発展しますことを願っております。

木目込み人形・押絵同好会 北 アサ子

私が、この木目込人形サークルに入会して早や、一年経ちました。この木目込人形を作りかけたのが二十年前の事、仕事をしながら、月二回教えていただき、可愛い人形が次々出来ると楽しかった。

押し絵も十枚ぐらいかな……………。

孫の市松人形や、羽子板など色々作り上げました。

その後、仕事も忙しくなり、作る時間もなく、そのままお蔵入りになっていました。

三年前に仕事を辞め何かしなくてわと思ひ、以前一緒に習っていたお友達に、電話を掛け話してみると、このサークルを勧めて頂いた。その後一度参加してみても、初めて会う人達なのに、暖かい目で迎えて下さったのでとても嬉しかった。レクリエーションで有馬温泉に参加、大台カ原ハイキングも楽しかった。

サークルに入り一年になり、お友達も増え、作品も次々出来上がり、これからも長く続けて行きたいです。とても楽しいサークルです。

手踊り同好会

毛利
公子

てんでん てまりは てんころり

はずんで おかごの 屋根の上

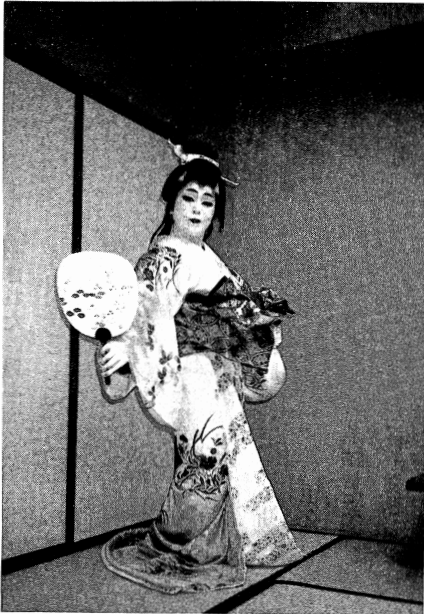
もしもし 紀州の お殿様

あなたの お国の みかん山

私に 見させて くださいな くださいな

ご存知の方はご存知の「まりと殿様」の三番です。椅子に腰かけて、大きい声で歌い乍ら踊る手踊りです。三回も練習したら、誰にでもできる楽しい踊りです。「まりと殿様」は五番まであるのを、ご存知でしたか。去年から続けて行かせて頂いている、老人ホームでも、一番人氣のある手踊り曲です。

毎月第一と、第三の金曜日。少しメンバーが変り、ふえて、又一から「祇園小



毛利公子
国立文楽劇場にて「夕暮れ」

平成9年3月30日

唄」をお稽古しています。興味のある方は、右京集会所をのぞいてみてください。

昨春秋は、奈良市史跡文化センターで「磯の月」、今春は、大阪国立文楽劇場で「夕暮れ」を踊らせていただきました。一世一代の大変身と思いましたが、終わって写真を眺めていると、病みつきになりそうです。現在、飛鳥流名取り試験曲に挑戦、汗かき、ベそかき、特訓中です。がんばって勉強し、お稽古なさる方にも、喜んでもらえるよう、資格をとりたいと思っています。

「手踊り同好会」の方々にも、一度、舞台の楽しさを、味ってほしいと思っております。

古代史講座

渡邊 千津

鬼頭先生の博識に魅せられて、続日本紀「直木孝次郎他訳註」をテキストに楽しくお勉強を続けて居りました矢先、先生が俄に倒れられ一時はどうなる事かと心配致しましたが、会員の熱意と広田好實様の献身的な司会進行のお蔭で家族的な会を今日迄続けることが出来ました。

承れば先生も涙ぐましい程の自己管理をされ、未だ以前の様には参りませんが、お目にかかる度に目を見張る様な回復振りで私達一同も一安心致して居ります。新会員も次第に増え、こじんまりした集いから又元の様な大きな会にと戻りつつあります。今のお勉強は元明天皇の御代、バスで元明・元正の御陵の傍らを通ります度に平城京に都の有りし頃に思ひを馳せて居ります。

最近不思議に思った事は、元明天皇の御代になって矢鱈お金に関する詔勅が出されて居る事です。例へば和銅

四年十月詔された「錢を何貫蓄えた者には何の位をあたえる」(蓄錢叙位令)とか、又六年三月には「性格や意識が清廉潔白でその時々々の政務に堪能であっても、錢貨の蓄積が乏しく六貫文に満たない様な人物は今後遷任してはならない」と言った様なくだりです。一体どんな時代の背景が有ったのかと思はれます。

何はともあれ高の原に住み、不到着のまままで奈良朝の歴史が紐解け、古代史に関する色々のお話しが聞ける、古代史講座、先生の順調な御回復を祈り乍ら毎月第四次曜日午後二時より集って居ります。

野草をしらべる会

前川 良雄

長い長い冬が過ぎ去りようやく花咲く春になりました。道端の雑草も緑が芽生えて、赤、白、青、黄の花を咲かせています。野草の会は六月、八月、十月の下旬に右京集会所にて、野草の名をしらべ、標本を作っていくたく思っています。

春一番に咲きはじめるのは「イヌノフグリ」。青色の

小さな花を咲かせ、実が犬のフグリに似ているのでこのような名がつけられました。

黄色のタンポポも、いたるところで咲いている多年草で、たくさんの花を柄の上部にさかせ、傘のような実をつけ風によって飛ばされます。

平城ニュータウンの、駅前ふれあい橋の花壇にむらがつて生い繁っているのは、ヤエムグラ、カラスノエンドウ、ミミナグサ、ギシギシ等です、ツツジの植木がこれらの野草のためかくれてしまっています。右京三丁目の三号公園にはミミナグサ、ギシギシ、スズメノカタビラ、カモジ草、シロツメ草、カタバミ、カモジ草等が生いしげっています。ツメ草は葉が爪に似ているのでそうよばれています。この草を虫かごに入れて、ほたるを飼うのに使われます。スズメノテッポウ、スズメノエンドウ、スズメノヤリ、スズメノカタビラ等スズメの名のついた草がたくさんあります。スズメノテッポウの花の柄をぬいた茎を口でふくと、笛のようにピーとかわいい音がします。ヒメジョオンも、この町のいたるところで咲いています。フキ、スマイレ、ムラサキカタバミ、カタバミ、クローバー、(シロツメクサの別名)アカツメクサ、レ

ンゲ草等があります。わが町ではレンゲ草は見られなくなりました。

春が過ぎ六月になると、草の種類もかわってきます。ヨモギが大きくなって花をさかせます。アレチノギク、ヒメムカシヨモギの花はヨモギによく似ています。カラスウリ、オオバコ、ヘクソカズラ、ヒルガオ、マツヨイグサ、チドメグサ、セリ、ヤブガラシ、コニシキソウ、ヤハズソウ、クサネム、ナデシコ、スベリヒユ、ドクダミ、クワクサ、ネジバナ、ノカンゾウ、ツユクサ、ノビル、スズメノヒエ、エノコログサ、オヒンバ、メヒンバ、ギンエノコロ、ヒメコバン草、カラスムギ等が見られます。八月が過ぎ九月になると野草にそれぞれ実がつきます。アメリカセンダン草、アザミ、ヨメナ、セイタカアワダチ草、ナンバンギセル、ハッカ、ワレモコウ、イヌビユ、イヌタデ、ハナタデ、ミゾソバ、ヒガンバナ、カヤツリグサ、ヒメクグ、ススキ、チカラシバ、カゼグサ等々が見られます。

以上が平城ニュータウンの野草の種類です。ふまれてもふまれても、土があればどんなすきまでも、毎年毎年

春になるとかわいい花をさかせる野草たち。われわれ人間も野草にまけないで元気に生きようではありませんか。

拓本を楽しむ会

山田 正子

平成八年度の最終採拓は三月二十六日でした。桜井市の山の辺の道に沿った檜原神社周辺に、参加者十二名はそれぞれの目的場所に散りました。

折よく好天に恵まれ、山の辺の道からは、遠く大和平野が望まれ、三輪山もくっきりとそびえています。会員の皆さんと、又個人的に二、三人のお仲間と数回訪れたこの地ですが、何時来ても心が洗われます。澄みきった空気のせいでしょうか。

神社の辺りには、棟方志功、徳川宗敬、入江泰吉、少し歩を進め井寺池附近では、東山魁夷、久松潜一、千宗室、川端康成らの筆による碑があります。先日、テレビで書家の榊莫山が

「大和は国のまほろば、たたなづく、青がき、山こもれる、大和し美し」

この川端康成の字をととも賞めておられました。

「味のあるいい字ですね」とそんな言葉を思い出し、私はいつの間にかこの碑の前に立っていました。

碑は土砂で大変汚れておりましたので、何度も何度も拭きました。そして水張りです。難しいこの作業、紙に皺が寄らないように碑にピタッと貼り付けます。次に刷毛で叩きます。刻まれた字が浮いてきます。適当な湿度のうちに墨をつけたタンポで軽く丁寧に打ち続けます。打ち終えて碑面から紙を剥がし新聞紙上に展げます。ここでやっと緊張感から解放されますが、出来栄えの良し悪しが又気になるところです。

こうして私は二枚続けて採ることができましたが、一枚は合格、一枚は墨の濃淡ができて不満な仕上がりでした。碑は土手の斜面にあり、不自然な姿勢で採拓しましたので、足の弱い私にはとても苦痛でしたが、とにかくやれやれです。草むらに足を伸ばし一息つきました。

東山魁夷の碑の前ではタンポ打ちに懸命なKさんの姿が見えます。

土手にはハコベが這うように生えています。春の到来を待っていたのでしょうか。



池には三輪山の影が写り、春の光にゆらゆらと揺れて
 神神しささえ感じます。

辺りの樹々も美しく、しばらく見入っております。

帰りの集合時間も近づいてきます。もう一枚がんばりま
 しょうと、千宗室の揮毫による碑を採ることにしました。

「鳴る神の 音のみ聞きし 巻向の 檜原の山を 今
 日見つるかも」

私が「拓本を楽しむ会」に入会し、最初に採拓したのが
 この碑でした。

あれから、もう九年になります。

その間には、淡路、南千里、伊丹、四日市、榛原など
 各地に出掛けました。又、一泊の旅も企画していただき、
 信州上山田、下諏訪へも参加いたしました。千曲川に沿っ
 た上山田万葉公園には二十余りの歌碑があり、キラキラ
 と輝く岸辺の穂すすきに感動しながら採拓したことも思
 い出されます。

毎年、春、秋に開催される展示会には、会員三十名の
 作品が出品されます。それぞれが各地で採拓したものを、
 軸、額、パネルに製作し展示いたします。とても素人の
 作とは思われない力作が所狭しと並んでおります。



皆様のご鑑賞をお待ち致しております。

平成八年度 活動状況

- 1 五月十七日(金)～十九日(日)
作品展 平城西公民館 四十七名
- 2 六月十二日(水)～十三日(木)
採拓 洲本市島病院碑林 六名
- 3 九月二十六日(木)
採拓 金津町「雨夜塚」 十六名
- 4 十月四日(金)
採拓 伊丹市昆陽池 五名
- 5 十一月四日(月)～八日(金)
文化祭 作品展 二十七名
- 6 一月十一日(土)
新年会 北部出張所会議室 二十名
- 7 二月十三日(木)
立体拓講習 北部出張所会議室 十一名
- 8 三月二十六日(水)
採拓 桜井市松原神社附近 十二名

パッチワーク研究会

若原 和子

春が過ぎ早や初夏を迎えようとしておりますが、『層富』が発行され、この記事が掲載される頃は、さぞ秋頃ではないかと思えます。季節の移り変わりは早くまたひとつ自分の年をかさねていくのかと思うと、リモコンで止められるものなら止めておきたい心境です。

東京より引越してまいりまして、当地の生活をはじめ、いろいろな奈良の自然の美しさや、古くからの歴史に触れるについて、奈良の良さをつくづく感じている昨今です。

姉にすすめられて文化協会に入会し、パッチワークの講座を受けることにしました。何もわからずに最初に作った作品を今見ますと恥ずかしくなります。作品をかさねて作るごとに技術の深さや、むずかしさを感じておりません。

先生や皆様の作品を見せていただいて、布地の合わせ

方や色の配合によって、こんなに個性を生かした作品が出来るのかと勉強させていただいております。

今迄働くことのみで、余裕のない生活を長年つづけてまいりました私にとって、パッチワークや、その他の趣味の時間をもつことが出来る今の生活は、本当に嬉しくしやわせに思っております。これも偏に文化協会でいろいろお世話をしていただいている方々や、親切に指導していただいている先生や先輩方のお陰と感謝いたしております。

今後共平城ニュータウン文化協会の益々の発展と、先生方を始め皆様方のご健康を切に願っております。

絵画の会

丸福 修

62歳で退職して、濡れ落葉にだけはなるまいと心に決めていましたが、さて現実に毎日が日曜となると、たちまち暇を持て余す仕儀となり、仕事に興味と無趣味を誇っていたのが大きな誤りである事に気付いた時には既に手

遅れでした。たった一つの楽しみは美術展を追い掛けることでしたが、それも毎日となると行く所がなく途方に暮れる日日でした。

所が失業保険を貰いに職安に通って4ヵ月頃に職業訓練センターで工芸デザイン科が発足し生徒を募集している事を知り、その内容がどうやら趣味になり相な気がして早速に応募し適性検査も無事合格して1年間の生徒生活が始まりました。然しその授業内容はこれまでと全く別の世界の様で驚いたり途惑ったりの連続でした。その授業内容はデッサン・建築パース・テクニカル、イラスト・色彩理論・漆塗り・鎌倉彫・七宝焼・銅板レリーフ・エアープラシ・シルクスクリーンなど多彩な内容の手解きを受けました。なかでもデッサンは総ての基本という事で1回4時間週2回の重点授業で四苦八苦の苦業でした。何しろ小学校卒業以来絵などは描いた事はなく、実力の程は小学生並と自覚していましたが初めての授業で描いたデッサンが並どころか以下であることを思い知らされガックリとしました。ご指導の奈良芸大富松幹雄先生の『初めは誰でも同じ、これからが勝負』という言葉に励まされ1年間を何とか努力しました。先生のご指導

が良かったので何とか様になるデッサンが描けるようになりました。となると欲が出て観ることしか出来なかった絵画が自分にも描けるのではという気がして、これが転気で濡れ落葉になる事もなく現在に軟着陸を果す事が出来ました。

センター卒業後描く事を続けるべく教室を3つ程梯子しましたが、理由が良く解りませんが、どの教室もピタと来るところがなく、いづれも4ヵ月程で止めました。偶々、大阪市立美術館に附属美術研究所がある事を知り、早速に入所検定を受け実技が最低のDクラスで辛じて合格しました。以後は毎日デッサンに取組み、更に週1回デッサン以外の作品を持参して指導を受けるという修業生活が始まりました。3ヵ月に1回実技テストがありそれに合格しないと上級過程に進めない仕組みになっています。課程は石膏デッサン前期、後期、人体デッサンの3課程でこの3課程を終了すれば初めて絵画部と彫刻部に分れて本来の勉強をする事になります。私は未だ石膏デッサンをうろうろしています。

ご指導の先生方は二紀会審査員の伊藤岳先生、第七回昭和会賞を受賞された大阪芸大教授辻司先生、93年に伊

丹市立美術館で招待個展を開かれた久保晃先生など多士
済々の7人の先生方です。

本来はプロのアーティスト養成が目的なので内容は可成り
厳しく入所時には25名から30名位入りますが脱落者が
多く1年も経てば2名か3名位しか残らない状況です。

指導法は対象を理解するには良く観て描き自分で悟る以
外には自分の画法は生れないという考え方です。従って
描法とか技法とかの具体的な事はほとんど教えて頂けま
せんが、作品の問題点は指摘されます。従ってその問題
点の解決は自分で工夫発見する以外にありません。それ
は厳しく苦しい事ですが、間違ひなく確実に進歩します。
私もそれを実感しましたが、私の様に感性の無いものに
とっては時間の掛る苦しい修業になります。そんな訳で
何も教えてくれないと去って行く人が多いのです。然し
問題が解決したり、思い通りに描けた時の歓びや楽しみ
は格別なものです。それが絵を描くことの魔力かも知れ
ません。時代遅れとも思える指導法ですが、絵画の本質
を理解するには良い方法ではないかという気がします。
先輩の中には安井賞に入選したり、ノミネートされた方々
が何人か居られます。こうした先輩達が苦しんでいる後

輩を援けてくれます。内容が厳しいだけに描くだけでな
く理論武装も必要で、光と影、色、構図、平面と空間、
具象と抽象、言葉では語り得ない視覚的な思考、哲学、
印象派以後の既存否定の流れ、などなど、感性中心の絵
画理論を勉強せざるを得ませんでした。これは私の理
解の限界を超えていたので未だに消化されていません。
然し、ほんの少しですが消化された部分もあってこれま
で漫然と観ていた絵画を観る眼が少し変わって来た事は確
かです。セザンヌの絵が僅かですが理解出来るようにな
りました。さて、その観る眼が私の絵に生かされてい
かという疑問を感じます。どうやら頭で理解出来ても
感性で理解出来ない様に思います。私の絵は対象を
忠実に写している様なもので余り面白味がありません。
この枠から出たいと思いが果せずにあります。

4年前に妻が患ったのでその後研究所通いは中断しま
した。2年前に当地に引越して来て文化協会の活動を知
り、昨年5月に入会し絵画の会に入れて貰いました。実
はこの入会が私の絵画観に変化を促しました。初めは趣
味で楽しもうと描き始めたのですが、意外と努力のいる
修業?になり、こんな筈では無かったといささか疑問を

感じていました。然しそれなりに面白くなり続けて来ました。ところが会に出席して驚いたのは会員の皆さんがのびのびと楽しみ乍ら素晴らしい絵を描いて居られたことです。皆さんの絵はそれぞれの個性があつて一目観れば誰それさんの絵だと解りますし、こんな事を描きたいのではという事も解りますし、何よりも虚心に自由に描かれた絵には人を引付ける魅力があり、絵画的な面白さがあります。初めて小西さんの絵を見た時にルソーや原田泰治さんと同じナイーブな雰囲気を感じ感しました。

また高齢の白松さんの絵には画題の発想と構図に過された人生の重みを感じさせられました。勿論、構図とか遠近とか指摘すれば問題があるかも知れません。然し中川一政先生の凝縮された簡素さに通ずる魅力があります。

この会に入って、虚心に自由な発想で描く大切さを、会員の皆さんとの交流の中で知りました。私もこれで枠から出られるのではと期待しています。

絵を描いてみたい皆さん。上手や下手やを抜きにして、是非、絵画の会に入会して描いてみて下さい。楽しんで、自由に描いて居れば、必ず魅力的な絵が描けると思えます。ご指導の梶野先生の助言が更に力を加速して来れま

す。初めての人も、習って居られる人も、是非参加してみませんか、必ず楽しんで頂けると信じています。会員の皆さんが楽しく描けるように貴方を捲込んでくれる筈です。私の体験からお勧めします。

皆さんの参加をお待ちしています。

英語講座

西尾 弘子

パスポート猫にも見せて春隣
手真似して通ず嬉しさ荔枝買う

これは十数年前、中国に留学中の姪を訪ねて、姉と二人で初めて海外旅行した時の俳句です。

パスポートを手にした時は、わくわくと胸躍り出発を楽しみにしていましたが、いざ中国に着くと中国語は勿論、少しは勉強してきたはずの英語が全く聞き取れず、英単語と手真似だけが頼りの心細い旅となりました。時間をつくって案内してくれた姪が、中国語と英語を自在



— (新年会) —

に使いこなす姿に唯々感心し、目をみはる思いがしたのを思い出します。

学生時代には英語が好きでも得意でもなかった私が、文化協会の会報で英語講座の案内を見て、入ってみようかなという気になったのは、この時の体験が基になっているのかも知れません。

英語講座に出席して先ず驚いたのは、受講者が若いこと。歳も若いし気も若い。英文科の卒業生も海外生活経験者もおられる中で、『書く』『読む』だけの、昔の英語教育を受けた私は『聞く』『話す』ということが大の苦手。皆さんの足手まといになりつつ、学生時代に戻ったような気分になれるのが楽しくて、第一・第三土曜日は、いそいそと平城東公民館に通っています。

九時半から約一時間は初級(中学程度)、その後十二時までは中級(これはかなり難しい)ですが、どれを受けるかは全く自由です。初級と中級の間には、歌やことわざなど気分転換になる学習もあります。

初級・中級共テープによるヒアリング中心の学習ですが、初級では文法的なことも適宜教えてくださいます。まだまだ会話らしい会話はできませんが、自分の片言英

語が通じた時はとても嬉しく、これが海外旅行の一つの楽しみになり、又、英語講座に通う励みにもなっています。

新年会と夏の会食が講座の恒例行事ですが、今年は、八月にシンガポールとインドネシア（ジャワ島、バリ島）へ、有志で旅行するという計画もあります。

これは、講座の仲間だった島田さん（昨年の層富「三度、赤道を越える」の執筆者）がインドネシアで仕事をしておられ、案内役を引き受けてくださるということなので、こんな良い機会を逃す手はないと計画したものです。

この講座では、一人一人が発声して練習することを大切にしています。そのため人数に制限があり、入会を希望されても暫く待っていたり場合もあるようですが、鎌田先生始め皆さん、とても明るく気さくな方達です。で、お気軽にお問い合せください。私のように『さっぱり聞き取れず、さっぱり話せず』でも、皆さんのおしゃべり（勿論日本語ノ）を楽しみに出席していれば、少しずつ英語に慣れてくるような気がしますよ。

「……歩く会」

廣田 省吾

『層富』第八号に、松岡先生は「……歩く会」の在り方に——《歩くこと》が唯一の楽しみにしている人人の集まりです。——と、呼びかけておられますが、廣田が窓口を引き継いで三年目、皆様が果して楽しんで歩いてもらえたか、どうか、甚だ頼りない窓口です。

平成八年度は、左記の様に歩きました。

* 四月二十一日 晴 十一名

● 平群方面

船山神社 — 三里古墳 — 長屋王墓 — 吉備内親王墓
— 藤田家住宅 — 普門院 — 白山神社 — ツボリ山古墳

* 五月十七日 晴 二十八名

● 平群方面 (二回目)

平群の大庄屋・藤田家の主屋の棟木が十一本あり、十



96・5・17
平群、藤田家主屋前で

一本の棟木がある庄屋さんの息子の嫁さんに、相手も十一本棟木のある家からもらおうそうなの。——掃除が大変やで——奉公人がおられるがな——ソウヤ。ソウヤ。要ラヌ心配ヤッタ ナア。

*六月九日 雨 中止

*七月七日 雨時々曇 五名

●山城町方面

涌出宮——平尾山城山古墳——椿井大塚山古墳——松尾神社——狛弁財天——上狛環濠集落——高麗寺跡

*九月二十日 曇後雨 二十六名

●山城町方面 (二回目)

昭和二十八年、最近邪馬台国論争につながる「三角縁神獸鏡」が一度に三十數面も出土した、椿井大塚山古墳に登り、弥生時代の人々の生活に想いを馳せます。竹藪に囲まれた此の古墳を、JR奈良線が横切っているのも時代の流れを感じます。

山城町、上狛の通称「大里」は、「環濠集落」として

有名です。室町時代に村の田畑を堀によって仕切り、その中で、江戸時代に亘る五百年間、人々の生活を見守って来た「大里環濠」は、今も変る事なく、静かに流れていました。

今日は、飛鳥時代に創建された、我が国最古の仏教寺院の一つといわれる高麗寺跡を尋ねて終わりました。

弥生時代から、平城、平安へ、そして、戦国時代から現代迄、どんな人達が、どんな想いを抱いて、此の、奈良街道を歩き来たのでしょうか。その道を、私達は、ワイワイ、ガヤガヤと、歩いたのでした。

—— やっぱり、此の道を楽しんで歩けるのも、奈良（平城ニュータウン）に住んでいる御陰やなあ。

*十月二十日 晴 九名

●宇治方面

橋寺放生院 — 宇治神社 — 宇治上神社 — 興聖寺

— 浮島 — 平等院

*十一月十五日 晴 十四名

●宇治方面 (二回目)



96・9・20 山城町方面
高麗赤跡にて



96・11・15 宇治平等院にて

橋寺の御住職のユニークな説教に、皆さんは、始めはあっけにとられていたのですが、終りまで畏って聞きました。

興聖寺の上り道にさしかかった時、側溝を覗いていた隣の人が、「一寸、耳を傾けて ミイ………」と言う。

——聞こえて来たのは、サラサラと、清らかなせせらぎの音。

源平の兵共の夢の跡、浮島で昼食。

平等院——今も昔も、極楽浄土を願う人々で、何時も一杯。平安時代の貴族は、どのような極楽を願ったのでしょうか？

宇治と云えば、平等院——平等院を思い浮かべますが、今回は、何時も遠くから眺めていた対岸を歩いて、又、違った宇治を発見していただいたのでしょうか。

【付記】

頼り無い窓口ですが、下見に付き合って下さった方々、資料を見せていただいた方々、そして、参加して下さいました方々、有り難う御座居ました。今後共よろしく御願致します。

又、ここを歩いたらと言おうような所を、御連絡下さい。御願います。

俳句入門講座

坂本よしゑ

俳句と共に四十五年

昭和二十八年八月、主人の転勤と共に九年間住みなれた堅田の浮御堂に近い住友金属の社宅から、和歌山の社宅に転宅致しました。その頃中学一年生だった長男の国語の教科書に、

流れ行く大根の葉の早さかな

という虚子先生の御句があり、長男から説明を求められました。確かな答えが出来ませんでした。当時私の家の近くに住まわれていた辻きみ代様が、堅田の中井余花朗先生のグループに交わって俳句を作っておられることを承り、尋ねに上がりましたところ御親切に教えて下さいました。そしてその頃より俳句のお仲間にも入れて下

さいました。初めて作りました俳句、

白梅の匂へる道を行き帰り

を余花朗先生の御選に入れていただいて嬉しかったことは今でも忘れられません。

その頃和歌山の社宅は海岸の松原近くにありましたので、私たちの句会を「渚句会」と名付けておりました。会員は男性の方も交えて六人程の集まりでしたが、次々にお若い方が入会されて十人を超えました。隣の間で子供を遊ばせての句会でしたが、時には浜に出て防風を見つけては喜び、又揚船に乗ったりして句作致しました。

防風の花に座りて春惜しむ

はその頃作りました俳句ですが、京極杞陽先生の「木兎」誌上にて嬉しい御句評をいただいたことも御座居ました。又、昭和三十三年頃「ホトトギス」誌に、

牛つなぐ紀の川つつみ月見草

を虚子先生の御選に入れていただきましたことは、一生に一度の幸運で御座居います。たまたま年尾先生が御外遊中のため、虚子先生が代わって御選して下さいましたので御座居ます。「ホトトギス」はその後稲畑汀子先生の御選になりましたが、今日までずっと投句を続けて居りま



文化祭展示 8年11月

す。

その後昭和六十年十二月、次男一家と共に高の原に引越して参り、六人家族の一員としてにぎやかに過ごして居ります。引越して翌年、平城院の花祭に家族と共に参り致しました折に、春駒先生、和代先生に初めてお目もじ致しまして俳句のことを少し申し上げましたところ、御句集「青丹」を御惠贈下された上に、平城ニュータウン文化協会俳句講座の会員として入会させて頂きました。又、私にとりましては一生に一度の句集「小春」上梓の節には一方ならぬお世話を賜り、多くの方々に読んでいただけましたことは、ひとえに先生のお蔭と感謝致して居ります。

平城院にては月一回第一土曜日に「平城院句会」が催され、各地、遠くは津市、京都市、大阪市などよりも俳友が見え、春駒先生の御指導を受け、又第三木曜日には「ならやま句会」が平城西公民館で行われ、春駒先生より句評並びに俳句についての御講話をいただき楽しい午後を過ごさせていただいて居ります。

その上、今年四月には、春駒先生の御推薦のもとに、日本伝統俳句協会の会員にもして下さいましたことは、



新年句会 9年1月

身にあまる幸せと感謝致すばかりで御座居ます。

俳句を始めましてから早四十五年が過ぎ、米寿を迎える年となりました。長い間苦楽を共にしてまいりました主人も亡き人となり、今は俳句を何よりの支えとして毎日を通じて居ります。良き師、よき俳友に囲まれながら、これからも楽しく俳句を作り続けて行きたたく存じます。

俳句でふ支えのありて去年今年

一部屋があれば事足りバラ活ける



牧野春駒

「俳句入門」のグループ便りの前半を、今年は四人目、俳歴の一番長い坂本よしゑさんにお書き頂きました。明治四十三年生まれということですからもう八十六歳、会員の中では再高齢の喜多まささんに次いで二番目の高齢ですか、なお矍鑠かくしやくとして一人で句帳を持って吟行に出か

けられるとお聞きして舌を巻いております。しかもお人柄は円満そのもの、俳句を作る人に悪い人はいないと申しますが、その典形といふべきでしょう。俳句を作り始めたのは、私が昭和十六年ですから十年余り古いのですが、私は高浜虚子先生のご逝去の頃から約十五年のプランクがありますので、実質的にはよしゝさんの方が経歴が長いわけですし、何と申しましても一つのことを四十五年も続けられるということ自体が何より尊といふことで、文芸だけでなくこの多難な時代での生きざまとしてすべての人達に見習ってほしいものです。

昨年の「層富」に、一年間の私の体調が比較的よかったですと書きましたが、その後まもなくまた危機に陥り、昨年四月と六月に誤嚥（えん）（食べたものが声帯の隙間から肺に入ること）による肺炎で救急車で病院に運ばれ、とくに後の時は集中治療室で心肺停止の危篤状態に陥りました。しかし有難いことにまた弥陀のご加護を得て、一ヵ月半の絶飲絶食のあと声帯の手術を受けて退院することができました。講座の例会は二ヵ月休ませて頂きましたが、会報「ならやま」は南村照栄さんのご好意で続けることが出来、一時声が聞きとれにくくマイクを使いましたが



新薬師寺吟行 9年2月

昨今では上記の手術のお蔭で声は入院前よりはるかによく出るようになりまして、大和郡山まで行きましての新句会のおと新葉師吟行も年度末ながら行うことができました。

現在三十人ほどの会員がありますが、悩みは他の講座でもそうでしょうが新入会員が少ないこと、殆んどの方が「私は俳句などとても」と言われながら結局生き生きとよい俳句を作っておられます。上記の坂本よしゑさんには及ばないにしても、自分でつくるものは必ず生きがいになります。ともかく一句でも二句でも十七字を並べてお見せ下さることをお待ちしております。

万葉講座

松岡 禮一

そうです。

そうなんです。

皆さんが、上手に《持ち上げ》て下さるものですから、

《イイ氣になって》、それに乗っかって今日までやってきました。能力が無い事を承知で、この『万葉集』と言う大仕事を引き受けました。長く続いたものと思います。今日まで続く事が出来たのは、それは、言うまでもなく皆様のお蔭だ、と思っています。

最初は、今より以上にヨチヨチしていた事と思われます。講座の皆様の《目》からは、《不安で、不安でたまらなかつた》事と想像致します。我慢をして下さっていたのでしようネ。そうだと思いますヨ。

有難い事と、感謝をしています。

平成元年四月から初めて、丸八年。テキストの枚数は二八〇枚。そして、勉強をした歌の数は四二二首。これは、『万葉集』全体の約一割弱になります。

「脱線『万葉集』」として出発した講座です。言葉通り脱線ばかりしています。やっている本人は、脱線をして楽しんでいきます。

もっともっと勉強をしなければならない、と思つていきます。これからも、よろしく。

フランス語講座

木庭 和子

『星の王子さま』殆どの人が知っているこの有名な童話を原語で読みまじょうと、身の程しらずにも挑戦したのが間違いのものとした。

フランス語開講十年め。「もうペラペラ……でしよう。」なんていわれると冷や汗三斗の思いですが、ペラペラはともかく、ボキャブラリーも少しは増えて入門テキストに、一寸退屈してきたわけです。でも『童話』などと甘くみたのは認識不足でした。含蓄に富んだ内容と、独特のスパイスの利いた語法の前に、今更ながらフランス語のむづかしさを思いしらされました。然し、ここで辞めては『女が廃る』？ 折角旅行とか一寸した買物位は何とか通じるところまでできたというのに……と未練もあります。

それはともあれ、この劣等生をひたすら『忍』の一字で教えて下さっている高橋先生に申し訳けないことです。今一ふんばり……と心を入れ替えて、初歩からみっちりと複習です。そうそう、六十の手習いで学び始めたころ

には『人の十倍の時間をかければ……』と誓いましたっけ……。初心忘るなど自身にハッパをかけ、挑戦して甲斐のあるフランス語にかじりついてゆきましょう。

フランスという国に、フランス語に、興味をお持ちのあなた！ 今が入会のチャンスです。楽しいお仲間の増えることを希っています。

「囲碁同好会」

中村 正雄

囲碁 雑感

最近、呉清源が提唱する「二十一世紀の碁の打ち方」が話題になっている。

昭和三年十三歳で来日し独得な棋風で初手から天元に打つなど、木谷実と共に数々の新布石を発表、その後も碁界のトップ棋士として君臨して来た氏も八十歳をすぎ隠退しておられるが、碁に対する情熱は少しも衰えることがない。

「二十一世紀の碁の打ち方」の研究に没頭しその集大

成に残りの生涯をかけている。

それでは「二十一世紀の打ち方」とはどのようなことを言うのだろうか、呉清源によれば、

日本には三百年の伝統がある、中国ではプロの組織が出来てから十数年しかたっていない。

それにもかかわらず、日中囲碁大会でも勝ったり敗ったりで日本に追いついて来た。

日本では長い伝統があるため、部分の研究から始まり偶から辺におよび、それをもとに多数の定跡が出来てきた。

碁は広い、部分的な定跡だけではなく碁盤全体のつり合いについて考え全体がよくなってはいけない。

中国の人は古い定跡にとらわれず部分が多少損んであっても平気で定跡にない手を打つ。

日本人は先入感にとらわれて、定跡の中毒になっているためこのような手が打てない。

見える地を稼せいで（地にからい）それから二枚腰、三枚腰で頑張っていく、しかしそうしたやり方では通ようしなくなっている。

このように考えて行くと、二十一世紀の打ち方は無限

に広がって行く可能性がある。

と言う主旨の事を言っておられたが、今後ますます碁は国内ばかりではなく、中国、韓国、は勿論ヨーロッパ、アメリカ等世界中に広がりがつつあり碁を通して世界平和に貢献できるゲームでもあり今後ますます発展し愛好者の増えることを望むものであります。

◎ 同好会の活動状況について

当会は原則として第四日曜日を除く（他の会使用のため）毎日曜日の午後一時から午後四時四十分頃までの間例会の対局とし、碁を楽しんでいます。

行事としては

- ・ 毎年春、秋に行われる囲碁大会
- ・ 昇段・昇級を目的とするリーグ戦の実施。
- ・ 年二回行われる、奈良市公民館対抗囲碁大会への参加。
- ・ プロ棋士、中嶋先生による隔月毎の指導碁等の実施を行っております。

皆様方のご参加をお待ちしております。

読書会

林 美智子

平成八年度、読書会の活動

- 四月 加賀乙彦著 渥原 上・下
五月 文学散歩 蓮如上人ゆかりの地 吉崎御坊へ
六月 田部井淳子著 山の頂の向こうに
七月 城山三郎著 総会屋錦城
八月 松本清張著 事故
十月 平岩弓枝著 女の旅
一月 松本清張著 水の炎
二月 宮尾登美子著 春燈
三月 三浦綾子著 天北原野 上・下

文学散歩 吉崎をたずねて

読書会では、七年度の七月に、五木寛之著「蓮如」を読み、八月に「親鸞」をとり上げました。今回の文学散歩は、その一連の活動として、蓮如ゆかりの地である福

井県金津町の吉崎御坊をたずねることになりました。

五月二十四日、バスは補助席も使う盛況で、三十数名が早朝の高ノ原を出発しました。正午にJR芦原温泉駅前には到着し昼食をとりました。

ここから地元在住の、元お茶の水大教授の坂本豊先生が同乗されることになり、金津町の史跡を案内してくださいました。先生は九十一歳というお年とのことでしたが、かくしゃくとしたお方で、「奈良にも縁があります。」

となつかしそうに言っておられました。

溝江城跡、千束の一里塚、細呂木関所跡など、金津は小さい町ですが、ずい分みるべきところが多く、かけ足見学では、折角の案内者に申し訳けないように思いました。

さて吉崎は、現在では吉崎御坊跡として公園のように整備され、史跡として国の指定を受けています。

五木寛之の著書によりますと、蓮如上人は、祖師親鸞上人の教えひとつをかがけて、人々の中へ入り、布教活動をしていました。しかし、すべての人々にすんなりとは受け入れられない上に、延暦寺との争いで本願寺を追

われ、堅田や山科あたりを転々としたようです。そしてついに、他からさまたげられることなく念仏を説ける場所として、北陸のこの吉崎の地をえらんだとのこと。三方海にかこまれた小高い丘は、比較的広々としていて、昔、人々が信仰の為におとずれた寺跡などを、今私たちは観光気分で見学しました。

五十七才になった蓮如が生涯における最も激しい四年間をここですごしたのです。本堂、庫裡、書院、鐘楼、門などが建ち並び、連日大勢の人びとが、吉崎に吸いよせられるように訪れてきたといえます。今は低い柵で、それらのあった位置を示しているのみです。

蓮如ブーム、吉崎ブームで語られる話の中に、信仰のために毎夜吉崎参りをした女性と、老母の「嫁おどしの面」の伝説があります。車中、Nさんの朗読を聞き、その「肉づきの面」も拝観しました。五木寛之は、これらの物語の由来等も、作品「蓮如」の中でくわしくのべています。時代背景もみずごせないし、蓮如の人柄等いろいろが交錯して、一時代があったのだということ、私たちは文学により知り、文学散歩により確認できました。最後は、丸岡町にある「中野重治記念文庫」へ立ち寄

りました。近代的な建物で、中野重治の作品、創作活動をした居間などのある棟と並んで、明るい図書室がありました。いつでも自由に読書できるコーナーでは、本をとり出し易くした書架が、たくさん置いてありました。私たちの町にも、このような図書館のできることを願って、文学散歩の一日を終えました。

「地酒の会」

中村 正雄

例会百五十回を迎えて

当会は、平成九年一月十五日の例会をもって一五〇回を迎えた。当日は恒例若草山の山焼の行事もあり、これを見物の上、般若寺で料理店、御逢詞集^{オノトコジ}を経営する当地酒の会の会員でもある福田氏方において例会を行う企画である。

当日は高の原駅に会員一同集合の上、近鉄奈良駅より散策しながら山すそに向う。

花火が上り始めた、間もなく点火される台図であろう。



若草山の山焼の残り火を背景に

そのうちに、山のあちらこちらから点火され夜空に炎が舞い上る。

周囲の見物人から歓声が上がると、火の手はまたたく間に燃え広がるが、全山は炎でうめつくされる。

ニュータウンに在住して以来二十数年になるが山焼をこんな真近で見るとは始めてである。

炎の祭典もあつというまに枯草を燃えつくし下火となる。残り火を背景に一同記念写真を撮る。

次は楽しみにしていた第一五〇回目の例会を行うべく会場である『オワシス』にと急ぐ。

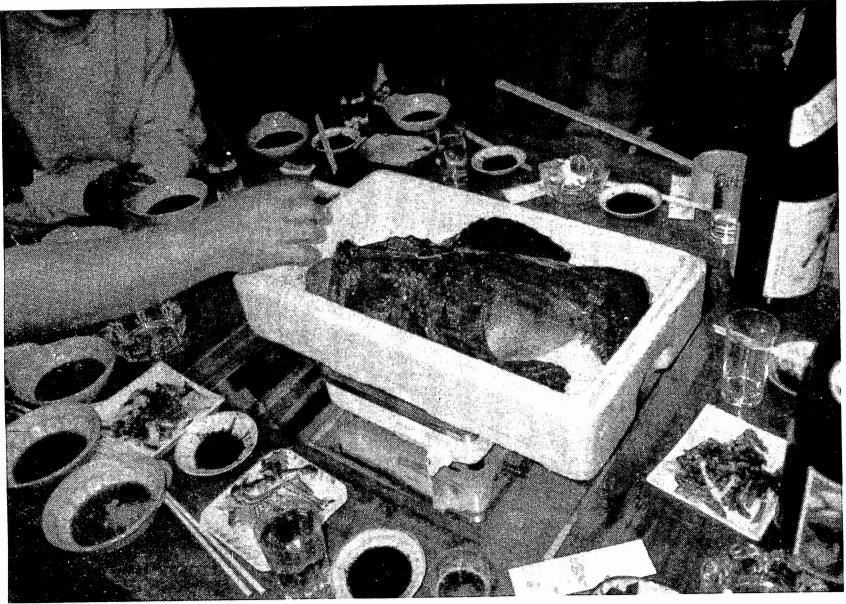
当日のために店主福田氏は、鮫鱈一匹及び樽酒を用意してしてくれた。

会員は先をきそってなれぬ手付で鏡を開き、店主は手際よく鮫鱈をさばく、乾杯が始まり宴会の開催である。

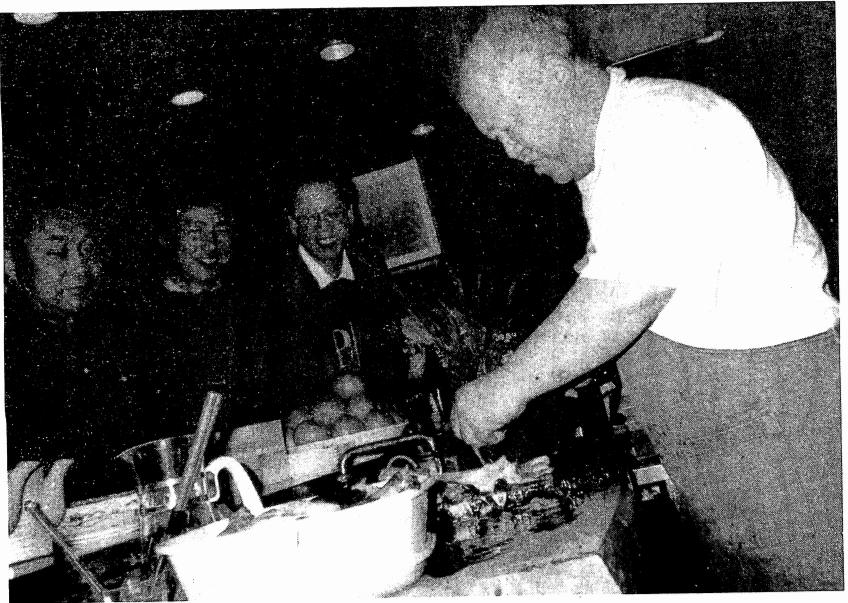
薦被りの樽酒を味わいつつ鮫鱈鍋に舌鼓しながら宴会は盛り上って行った。

今日の参加者は十八名、小さな店は貸切りであるが一杯である。

酒は友を呼ぶ、飲みながら語りながら新春の一夜が暮れて行く、我が地酒の会の第一五〇回も無事終了したの



サバかれる前の鮭鯨



鮭鯨をサバク福田氏



会場である「オワシス」にて会員一同

である。

◎ 平成八年度地酒の会開催状況

第一四四回 四月十三日 中村宅にて

毎年さつき鑑賞会を行っていたが今年
は時期が早く花がまに合なかった。

第一四五回 六月八日～九日、ユニチカ湯乃山荘

一泊旅行御在所岳、県立美術館見学等

第一四六回 七月十三日 レストラン「アワサイ」

積水経営 酒・ビール飲み放題

第一四七回 九月二十八日 「月見の会」

学研都市の日本庭園にて

第一四八回 十一月九日 「小麦粉」にて

第一四九回 十二月十四日 「オワシス」にて

第一五〇回 一月十五日 「オワシス」にて

第一五一回 二月八日 酒蔵見学（松本酒造）

第一五二回 三月八日 「味杉」にて

今回は初めての利き酒会を催す

五種類、満点的中者なし。残念多少

酔ったかな？

宮作りの会

中野 昭三

最近奥さん方と雑談しているとよく聞く話ですがお母さんの形見でのこしてある和服または自分の若い時に着ていた和服が今はまったく着る機会がないため宝の持ち腐れになっているという話がたびたび出てきます。私は男性ですので女の方の着物にはあまり興味はないのですが、宮に張る和紙の文様（柄）には興味がありますので時々古物市で面白い柄の布を買って来て宮に張ります。数年前からそうした宮やタンスを展示するようになったのですが特に最近皆様方が和服の処分にごまっておられるようなので何かよい解決策はないかと考えているのですが大切な和服の一部分だけ取って余りをすてしてしまうのもいけないと思います。そこで以前から拓本をされる方々がやられている裏打の技法が気になっていました。布を裏打さえすれば宮に張るだけではなく、屏風や衝立にはめ込んだ物に利用して行く方法も考えられるのではないかと思っています。一昨年からそんな思いで布地を嵌込んだものを作ようになりました。思い出のある着

物をそのままむららしておかず、日常身近に使える物に変身させてやるのも一つの解決方法ではないでしょうか。

山歩きの会

西幹 友雄

立山連峰にて

山歩き会も一九九六年四月で、満十年になりました。これも文化協会の役員並びに会員のご支援とご協力のおかげだと感謝しております。

さて、今回は山歩き会メンバーの念願である北アルプス（立山連峰）登山、八月二十四日～二十五日一泊のようを書かせて頂きます。

古くから、信仰登山の対象であった立山連峰も交通機関の発達により、北アルプスの中でも最も入山の楽な山になった。七時三十分京都発（スーパー雷鳥一号）に総勢十一名乗り、一路立山に向いました。十一時十七分立



山に着いた時には小雨で、これでは室堂も雨だろうと思っ
ていましたところ、室堂ターミナルに着くと素晴らしい
天気でした。室堂でなにをさておいてもまづ昼食をとり、
室堂ターミナルから一ノ越への標識に沿って遊歩道を行
く。まもなく室堂山の標識があり、一ノ越への道と分か
れ、しばらくは幅広い道を登る。このあたりでは夏でも
残雪があり、皆さんが滑らないように注意して歩き一ノ
越山荘へ十四時二十五分につきました。山荘で明日の登
山計画のミーティング（慰労を兼ねて一杯）。

八月二十五日午前五時十分一ノ越山荘を出発して雄山
に登る。石の浮き出た道を、落石に注意しジグザグを切っ
て登る。

この頃から皆さんの息がかなり荒くなり小休止、やが
て傾斜もややゆるみやがて雄山神社に到着（午前六時）。

山頂からは後立山連峰から槍が岳、さらに遠くに富士
山までも一望できる大パノラマがひろがる。この日も宮
司さんの話では、こんな天気の良いのはめずらしいとの
こと、宮司のお祓を受け、大汝山（三千米）への縦走路
を行き大汝山小屋で剣岳を眺めながら朝食（七時）、真
砂岳山頂から山腹を巻きながら別山乗越を越えると、真

下には剣岳が広がり、剣岳が一層迫力を増して迫ってくる。皆さんもこの素晴らしい剣岳をまのあたり見て感動していました。この素晴らしい展望を楽しみつつ雷鳥沢を下り、浄土川を渡って雷鳥平につき、やがてミクリガ池に到着（十一時五分）昼食、ここで山の疲れをとるため温泉に入ることになりました。

ミクリガ池温泉を後にして、室堂ターミナルからバスに乗り、美女平（ケープル）經由立山駅に着き、十四時三十五分発（スーパー雷鳥八号）に乗り、無事高の原に（二時十八分）帰ってきました。今回十周年企画（立山連峰登山）天候も良く、参加された皆さまも大へん喜んでくださいました。

一九九七年度の山歩き会の予定は次の通りです。

七月度	音羽山	十月度	伊吹山
八月度	御在所岳	十一月度	武奈ガ岳
九月度	大洞山	十二月度	受石山

短歌をたのしむ会

荒居 智子

飛火野

飛火野の彼方が茜に染まっている。其處此處にいた鹿が寄って来る、さつま芋の匂いを嗅ぎとって集る。

ぐるりを囲まれて後の鹿にどんと背を突かれた、人間のように割込むことはしない彼等の掟の一つのようだ。

つばら目の幼い鹿は離れて怯えた目で芋を求める、新参者の鹿である。親離れをしたばかりかも知れない。

北狐の子別れはよく知られているが鹿の場合はどうであらうか。今迄慈しんで来た子狐を或る日突然苛め抜くのである、そうして諦めさせて広野に押出す。

鹿はどのような子別れをするのであろう。それともプライドを作って雌一族で生きるのかとも思う。

秋の夕べの帷が下りて寒さが身にしみる、興福寺の鐘の音が余韻を残して松の間に消える。古木の根方に黒い塊りが蠢いて赤い目がちらちらと闇に動く。一つのプライドかとも思う。

朝の飛火野に行くと腹が空いているらしく芝などを食

べるのに余念がない、そんな時鹿の耳がピンと立ち一斉に一つ方向にむかって走り出す。白い尻毛と尾を廻し乍ら走り飛ぶ姿は野生そのもので美しい。人影を見ない初冬の朝、鹿に逢いに行くと言寸川のせせらぎが豚のぬたばのように、土と水と捏ね合わされて鹿の脚跡そのままの薄氷が光っているのを見ることがある。

現在一千頭余の鹿がいると聞くが飼料は一切与えていないと言う。この森の中で生き抜くのは大変なことである。冬場は更に厳しい現実となろう。

飛火野のつゆけき朝紅葉を映してしづむ鹿の眼の沼

藤井常世

園芸の会

代表 北村 孫衛

園芸の会の近況です。

例会は花好きの茶飲み友達が集まった雰囲気で、まず抹茶を一杯、咽を潤おして、さあ始めましょうかであります。

床にいけてある花を、テーブルに持ち出して花の名前、育て方のポイント、切花としての水揚げや日持ちなどの軽い話題から例会は始まります。

園芸には季節に応じて、色々な仕事があります。種子を蒔く、苗を育てる（園芸店で苗を入手するとこの手間が省けて尚早い時期より花を見ることが出来る。）花を見た後の始末まで適切な対応が求められますが、遅れてはいい結果が見えないことも多いものです。逆に夏から秋に咲き誇った花々が、冷気と霜で枯れた後に植えて尚十分に春の花を楽しめる秋植球根類は、是非お勧めであります。この今からでも遅くない式の話題は、発車ベルが鳴っている列車に乗れた幸運に似て嬉しいのでよくします。このところ一番の関心事は、矢張り茶花、山野草の類と新らしい草花です。新らしい草花は原産地が全世界に及ぶため、皆さんの問いにお応え出来ない場合が多々あります。視点は異なりますが源氏物語よりむずかしい？。

私達日本人として季節感を大切にしたい。

咲いた花で部屋を飾る、或る時は鉢植で又、一輪の花をいけて食卓を飾る。花を手に入れば心も華やき、豊かな感性も育つ。これは花に宿った仏が、私達の人生を応

第28回奈良県民芸術文化祭
参加について

援してくれている。花は人生の応援花です。身近にある
花から人生のエネルギーを受け取って欲しい。

これは茶の湯の時、いけばなの時間にも、園芸の会で

も常に心して話すことです。

同好の方は御遠慮なく門を叩いて下さい。

花に夢を見ることが出来ます。

おわり



奈良県では、芸術文化に関する創作活動とその
成果の発表を奨励するとともに、優れた芸術
文化の鑑賞の機会を広く提供し、県民文化の振
興を図ることを目的に、標記の芸術文化祭を開
催されます。つきましては、この芸術文化祭に
参加される催しを募集いたしますとのご案内を
戴きました。

早速、委員会のご賛同を頂きましたので、奈
良県庁企画部文化観光課内奈良県民芸術文化祭
実行委員会事務局に参加申込みを致しましたと
ころ、この度、参加催しとして認定されました。

認定証は、七月中旬頃送付、リーフレットは、

八月初旬頃に県下のしかるべき機関に配布され
る予定とのことです。

したがいまして、今年度の文化祭のポスター、
チラシ、パンフレット等に、「第28回奈良県民
芸術文化祭参加」と明記することになります。

今年は、当協会15周年であるとともに、平城
ニュータウン25周年記念の年でもありますので、
一層華やかな年となることと存じます。

なお、この件に関する問合せ窓口は、広報
部梶野が担当致しますので宜しく願います。

梶野 哲

第十四回 文化祭記録



展示の部

◎前 期 十月三十日～十一月三日

◆書 道 菅 千尋

◆絵 画 梶野 哲 石川 和子

大野 貞男 岡本 幸子

込山 嘉代 沢田 実子

白松 春子 高橋ゆかり

南村 勝次 広田 省吾

丸福 修 山崎 明

◆押 絵 谷口 直子 網千佐和子

木目込人形 島田 守恵 西岡 智子

陣内 満子 鷺塚 順子

◆ネットワーク 打田 照子 樺原千鶴子

周藤 智子 野川タカ子

三輪 久恵

林 博子

◆園 芸 北村 孫衛

山内 梅乃

林 美智子

岡田 越子

村口美代子

石森千代子

東山 幹子

吉澤 幸江

堀池 光合

出口真喜子

島川 正行

小西 淑彦

石崎 路子

◆木 彫 井ノ山一雄

◎後 期 十一月四日〜八日

◆拓 本 込山 博介 宇野木久代 北本 敏子

黒田 節子 黒田 忠勝 佐々木富美代

沢田 実子 白松 春子 鈴木 玲子

宇徳 郁雄 高橋 友示 高橋はる江

竹本 千鶴 土井 正子 土岐 絹江

中村 弓子 南村 勝次 南村 照栄

西尾 弘子 西島 芳子 西山佐代子

平田 忠子 広田 省吾 藤原 香

堀池 光合 山田 正子 渡辺 亮斗

◆短 歌 網干 善教 荒居 智子 宇野木久代

大浦小枝子 岡田 越子 片桐 一夫

木庭 和子 沢田 実子 玉置 小代

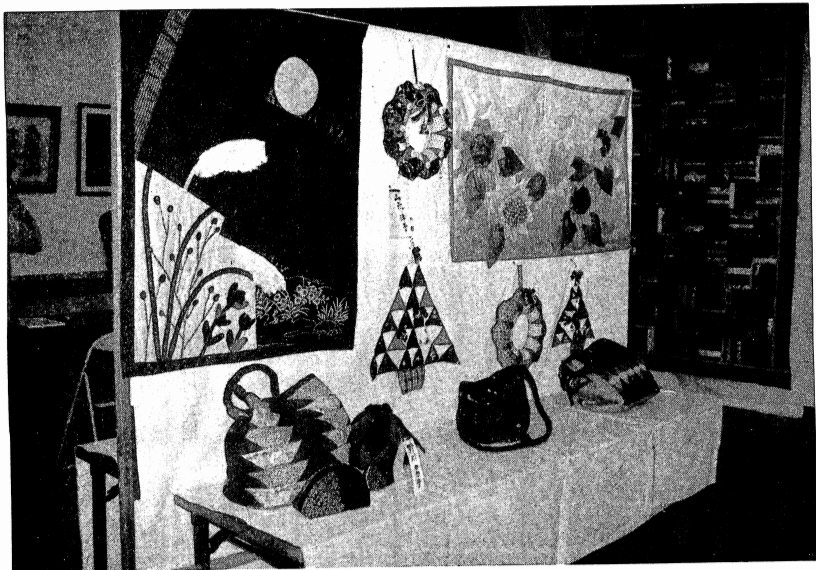
中川都哉子 仲谷 信子 福井 秀子

藤原 香 松村せつ子 森田 陽子

山崎たみ子 棉源 瑛子

◆俳 句 牧野 春駒 伊藤 柳紅 大浦小枝子

岡 良子 喜多 まさ 木村 長子





- ◆ 写 真
 赤坐 右一 北側 勝 志智 英子
 鈴木 昭弘
 森田 陽子 和田美代子
 三井サチ子
- ◆ ちぎり絵
 柴田八重子 大谷 桑子 柏木 一枝
 喜多 まさ 周藤 智子 西岡 智子
 西山佐代子 山内 梅乃
- ◆ 筥作りの会
 赤井美津子 秋山 静 樺原千鶴子
 岡田 越子 奥村 淳子 北村 源子
 幸路 喜代 柴田 静枝 杉山 啓子
 高橋 笑子 山本 尚子
- ◆ 地酒の会
 日本酒ラベル及写真
- ◆ 生 花
 北村 孫衛
- 込山 山歩 坂本よしゑ 重田 敦子
 重田 山風 辻田しま代 南村 照栄
 西田たまみ 西山佐代子 福井としみ
 藤沢 陽子 堀池 敏子 牧野 和代
 森田 陽子 和田美代子

上演の部

◎ 十一月九日(土)

◎ 北部出張所会議室

◆ 箏 曲

「子守唄変奏曲」

松本 雅夫作曲

菊地雅千絵

「湧き出づる力」

衛藤 公雄作曲

くるーぶ翔
菊地雅千絵

第1箏

岸本 敏江

吉本 康子

第2箏

河本雅栄州

林 千鶴

第3箏

古関 弘美

比良 尚美

十七弦

菊地雅千絵

◆ 舞 踊

「手古舞木槍」

久門 富美

「高砂」

吉永 俊子

◆ マジック

有馬アイ子

◆ 舞 踊

「霊峰富士」

有馬 昌子

岩井 静栄

土岐 絹江

有馬 昌子



◆中村昭三クラシックギター演奏 高の原音楽院

曲目

〔涙〕

作曲 タルレガ

〔アルハンブラの想い出〕

作曲 ソル

〔月光の曲〕

〔禁じられた遊び〕

〔なつかしのアラソフェス〕

編曲 中村 昭三

◆詩 吟 詩吟の会

ナレータ

木村 長子

コンダクター

大迫くき枝

(吟 題)

(作 者)

(吟詠者)

寒梅

新島裏

林 直一

舟中闇子規

城野静軒

陣内 満子

白帝城

李白

春田 良子

九段の桜

本宮三香

西尾 弘子

秋思の詞

菅原道真

吉田 輝子

花田 克子

越智 伸子

細川 昭子

中川 君子

◆舞

踊 手踊り同好会

〔磯の月〕

〔祇園小唄〕

山道 慶子

田中 達子

大迫くき枝

毛利 公子

毛利 公子

山内 梅乃



1997年度(平成9年度)

第15回平城ニュータウン文化協会総会

日 時 1997年5月31日〔土〕

受付 PM1:00

開会 PM1:30

場 所 北部出張所会議室

I 開会の辞

II 会長挨拶

III 来賓祝辞

IV 議長選出

V 議 事

(1) 1996年度事業報告

(2) 1996年度会計報告・監査報告

(3) 1997年度事業計画

(4) 1997年度予算

(5) その他

VI 閉会の辞

第15回総会 記念講演

午後2:30から

『世界遺産について』

講師 奈良市企画部長

南 田 昭 典 氏

懇談会

午後4:00から



1996年度事業報告

1996年 4月10日	協会報発行 全戸配布	
20日	神功・右京地区主催の歓送迎会出席	
14日	右京自治連合会総会出席	
5月 6日	第14回(1996年度)総会 記念講演「考古学からみた飛鳥」	網千 善教先生
6月 1日	ニュース1号発行	
16日	春の大和路見学 …………… 現地説明 「とみ神社」～兜塚古墳～めすり古墳～若桜	網千 善教先生
27日	押し花一日講習会 講師 廣崎 光子先生	
7月26日	常任理事会	
8月12日	ニュース2号発行	
9月 5日	右京小学校運動会出席	
7日	平城西公民館討議会出席	
26日	押し花一日講習会 講師 廣崎 光子先生	
27日	観月の会	
10月11日	ニュース3号発行	
15日	協会報発行 全戸配布	
10月29日～11月 9日	文化祭開催	
30日	記念講演 「奈良の街づくり」-阪神大震災にまなぶ-	早川 和男先生
30日～11月 3日	前期展示の部 書、絵画、押し絵・木目込み人形、パッチワーク、園芸、講習会の作品	
11月 4日～11月 8日	後期展示の部 拓本、短歌、俳句、写真、園芸、宮作りの会、地酒の会、ちぎり絵	
9日	上演の部 詩吟、舞踊、箏曲、ギター独奏	
10日	囲碁大会	
9日	ごくろうさん会	
3日	秋の大和路見学 歴史探訪ウォーキングに合流	網千 善教先生
29日	「ちぎり絵」(干支) 講師 柴田八重子先生	
12月15日	「新春を祝う会」の打ち合わせ会議	
24日	「層富」13号発行	
1997年 1月 1日	ニュース4号発行	
12日	第14回「NT新春を祝う会」参加	
14日	四自治連合会主催の市への陳情に参加 (文化総合福祉コミュニティーセンター仮称)	
31日	押し花一日講習会 講師 廣崎 光子先生	
2月 1日	ニュース5号発行	
17日	銅板レリーフ講習会 講師 丸副 修先生	
27日	銅板レリーフ講習会 講師 丸副 修先生	
23日	セミナー「私たちの暮らしと微生物」 生活に役立つ微生物 講師 竹西 繁行先生(大阪市立工業研究所生物化学課副主幹)	
3月29日	歓送迎会打ち合わせ会	

1996年度 決 算 書

平成8年4月1日～平成9年3月31日

【収入の部】

(単位：円)

項 目	予 算	実 績	増 減	備 考
前年度繰越金	354,771	354,771	0	
会 費	555,000	550,000	△5,000	(@1,500×366)+1000
後 援 費	100,000	100,000	0	各自治連合会、自治会他
寄 付 金	10,000	40,000	30,000	網干会長・渡辺様
雑 収 入	20,229	1,924	△18,305	銀行利息、余剰金
合 計	1,040,000	1,046,695	6,695	

【支出の部】

項 目	予 算	実 績	増 減	備 考
事 業 費	100,000	50,949	△ 49,051	文化祭、セミナー
助 成 金	69,000	66,000	△ 3,000	講座、同好会
会 議 費	20,000	3,800	△ 16,200	会議、資料、他
広 報 費	500,000	389,760	△110,240	会誌、会報、ニュース
事 務 費	30,000	23,049	△ 6,951	事務用品、他
印刷、消耗費	150,000	0	△150,000	コピー機修理代
通 信 費	15,000	2,160	△ 12,840	郵便料
渉 外 費	30,000	6,330	△ 23,670	協賛費、祝金等
雑 費	60,000	19,768	△ 40,232	
予 備 費	66,000	0	△ 66,000	
積 立 金		100,000	100,000	特別会計繰入れ
合 計	1,040,000	661,816	△378,184	

特別会計

平成8年度積み立て預金 100,000円

積み立て預金合計額 302,994円

1996年度会計につき帳簿証券など監査した結果適正であることを認めます。

1997年 3月31日 監 事 渡 邊 亮 斗 ㊞

監 事 西 村 美 佐 子 ㊞

1997年度事業計画

—はじめに—

当「協会」は、地域での日常的な文化活動を通して、地域コミュニティ・住民の親睦と和を実現していくために、当時の自治会・連合会の「街づくり」の方針のなかで結成推進されてきたものです。

この設立趣旨にそって、地域住民の多くの方の、参画を期するとともに、会員の研究、創作発表、相互の交流などの場としつつ、地域文化の発展に、寄与することを基本としていきます。

また地域四自治連合会をはじめ、スポーツ協会、教育懇談会、地区社会福祉協議会などの各団体の活動とも連携して、ひきつづき「街づくり」に貢献していきます。

—おもな計画—

1. 講演会の開催
総会記念講演
文化祭記念講演
2. セミナーの開催
3. 会誌『層富』の発行
4. 会報の発行（全戸配布）
文化協会案内号
文化祭案内号
5. ニュースの発行（隔月発行予定）
6. 大和路見学会
春1回
秋1回
7. 文化祭の開催
8. 観月の夕べの開催
9. 年間を通じて趣味の講座開催
10. その他

会の発展を期しての工夫など会員各位の、提案、役員会決定などにもとづき適宜事業を推進したい。

1997年度 予算

【収入の部】

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	384,879	
会 費	540,000	@ 1500×360
後 援 費	100,000	各自治連合会、自治会より
寄 付 金	10,000	
雑 収 入	5,121	銀行利息他
合 計	1,040,000	

【支出の部】

項 目	金 額	備 考
事 業 費	100,000	文化祭、セミナー他
助 成 金	69,000	講座、同好会への助成 3000×23講座
会 議 費	20,000	会議、資料、他
広 報 費	500,000	会誌、会報、ニュース他
事 務 費	30,000	事務用品
印刷、消耗品費	100,000	印刷機器消耗品、コピー
通 信 費	15,000	郵送料、電話代
渉 外 費	30,000	協賛費等
雑 費	60,000	各項目に該当しない必要経費
予 備 費	16,000	
積 立 費	100,000	印刷機器買い替え費（別会計）
合 計	1,040,000	

平城ニュータウン文化協会講座・同好会一覧

電話局番 = (7 1)

番号	講座・同好会	担当者	電話	曜日・時間	予定会場
1	歴史教養講座	網干善教	6510	第2火曜日(10時~12時)	北部出張所会議室
2	古代史講座	鬼頭清明	2997	概ね第4火曜日(14時~16時) 問合わせ 西島芳子(72-0335)	〃
3	囲碁同好会	中村正雄	0106	毎日曜日(13時~18時)	平城西公民館和室
4	木目込人形・押絵同好会	(窓口) 石森千代子	3183	第1・3水曜日(10時~14時) 指導・谷口直子	北部出張所会議室
5	読書会	(窓口) 山内梅乃	1654	第4金曜日(10時~12時) 指導・大橋一二	〃
6	中国語講座	ユキヒロ 松村如洋	9605		
7	詩吟の会	大迫き枝	2533	第1・2・3水曜日(13時~16時)	北部出張所会議室
8	地酒を味わう会	中村正雄	0106	第2土曜日(18時半~)	不 定
9	園芸の会	北村孫衛	0823	第4月曜日(13時~16時)	目 宅 (右京4丁目7-5)
10	拓本を楽しむ会	込山博介	5058	毎月1回(日時・場所はその都度 事前に会員に通報)	
11	絵画の会	梶野 哲	3295	第1・3・4・5火曜日(10時~12時) 第 2 火曜日(14時~17時)	北部出張所会議室
12	俳句入門 (平城山句会)	牧野自然	1771	第3木曜日(13時~16時) 問合わせ 西山佐代子(71-4950)	平城西公民館
13	短歌を楽しむ会	網干善教	6510	第3火曜日(13時半~16時) 問合わせ 木庭和子(71-3494)	北部出張所会議室
14	フランス語講座	高橋節子	8253	毎月曜日(10時~11時半)	〃
15	山歩きの会	西幹友雄	6102	第2土曜日 (雨天中止の場合は第3土曜日)	野 外
16	英語講座	鎌田時栄	3150	第1・3土曜日(9時半~12時)	平城東公民館
17	万葉講座	松岡 禮一	2964	第1月曜日(13時半~15時半) 第1・3水曜日(19時~21時)	北部出張所会議室 右京団地集会所
18	… 歩く会	広田省吾	0207	奇数月第3金曜日、偶数月第3日曜日	野 外
19	宮(はこ)作りの会	中野昭三	3258	第2・4月曜日(10時~16時)	北部出張所会議室
20	野草をしらべる会	前川良雄	0682	春・夏・秋年に3回程度	野 外
21	パッチワーク研究会	(窓口) 山元洋子	5138	第2・4金曜日(13時~16時) リーダー・打田照子	北部出張所会議室
22	手踊り同好会	毛利公子	1989	第1・3金曜日(10時~12時)	右京集会所
23	写真同好会	赤坐右一	0111	概ね月1回土曜日、ニュースで通報	野 外
24	銅板レリーフ同好会	丸 副 修	9445	第1・3金曜日(13時半~16時) 問合わせ 込山博介(71-5058)	右京集会所
25	押し花同好会	廣崎光子		隔月の第1木曜日(10時~15時) (0774-73-0702)	
26	料理を楽しむ会	松村せつ子	9605	第1木曜日(10時~)	平城東公民館
27	「子どもの生活」研究会	加藤育生	5223		

会 則

第一章 総 則

第一条 この協会は、平城ニュータウン文化協会という。

第二条 事務局は、平城西公民館に置く。

第二章 目的及び事業

第三条 会員の研究・創作発表、知識の交換並びに会員相互間及び他の文化団体との連絡提携の場となり、総合文化に関する進歩普及をはかり、地域文化の発展に寄与することを目的とする。

第四条 前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 講演会・研修会・展覧会・発表会・文化講座等の開催。
- 2 関連文化団体との連携及び協力。
- 3 研究の奨励及び研究業績の表彰。

4 会誌の発行。

5 その他目的を達成するために必要な事業。

第三章 会 員

第五条 平城ニュータウンに在住又は勤務する者で、協会の目的に賛同する者とする。会員の種別は次のとおりとする。

1 正会員 年間会費 一、五〇〇円

但し、高校生 五〇〇円

2 賛助会員 この協会の趣旨に賛同する者で、年間会費 五、〇〇〇円以上納める個人又は団体とする。

第四章 役 員

第六条 協会には次の役員を置く。

会長一名、副会長三名、常任理事若干名、事務局長一名、事務局次長一名、会計一名、理事若干名、監事二名。

第七条 理事は、正会員中より選出する。

二、会長、副会長、常任理事は理事の互選で定め、総会の承認を得る。

三、事務局次長、事務局次長、会計は理事中より会長がこれを選任し、総会の承認を得る。

四、監事は会員中より二名選出する。

第八条 会長は協会を代表する。

二、副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは代行する。

三、理事は理事会を組織し、協会に関する事項を審議し執行する。

四、常任理事は理事会の決定に基づき業務遂行に当たるとともに、総会で決議した事項を執行する。

五、事務局次長は会務の遂行に関する理事会、常任理事会等の決議に基づき全般の事務連絡処理に当る。

六、事務局次長は事務局次長を補佐する。

七、会計は会計事務を処理する。

八、監事は会計帳簿を監査し、通常総会において報告する。

第九条 顧問・参与を置くことができる。顧問・

参与は理事会の同意を得て会長が委嘱する。

二、顧問・参与は会議に出席して意見を述べることができる。

第十條 役員は任期は二年とし、再任を妨げない。

二、補欠により選出された役員は任期は、前任者の残任期間とする。

三、役員はその任期満了後でも、後任者が就任するまで、なおその職務を行う。

第五章 会 議

第十一條 理事会は必要に応じ会長が招集する。但

し、理事の三分の一以上から会議の目的を示して請求のあったときは、理事会を招集しなければならない。

二、理事会の議長は、会長又は会長の指名する者とする。

三、理事会は、理事の二分の一以上出席しなければ議事を開き議決することができない。

四、理事会の議事は、出席理事の過半数

をもって決し、可否同数のときは議長が決する。

第十二条 常任理事会は、会長、副会長、常任理事、

事務局長、会計によって構成し、必要に応じ会長が招集する。以下理事会に準ずる。

第十三条 通常総会は、毎年一回会長が招集する。

二、臨時総会は、理事会が必要と認めるとき会長が招集する。

三、総会の議長は、総会出席者の中から指名する。

四、総会の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。

第十四条 次の事項は通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。

1 事業報告及び収支決算

2 会計監査報告

3 事業計画及び収支予算

4 その他理事会において必要と認められた

事項

第六章 会計

第十五条 経費は会費並びに補助金、寄付金、その他の収入による。

第十六条 会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。

第七章 会則の変更

第十七条 この会則は、総会の議決を経なければ変更することができない。

第八章 補則

第十八条 この会則施行についての細則は、理事会の議決を経て別に定める。

第十九条 この会則は、昭和五十八年二月二十七日から適用する。

